

## 第16回 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会

# 情報提供・相談支援部会

2021年5月27日（木） 13:00～16:00

オンライン会議システムを利用

# 本日の内容

1. 開会のあいさつ
2. 本日の概要
3. 第3期がん対策推進基本計画の中間評価ならびに小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業について
4. がんと診断されて間もない人への情報資材作成  
作成・査読・提供・活用・評価について
5. 拠点病院の整備指針に関する調査結果を踏まえた部会としての検討について

# 本日の内容

## 6. 地域相談支援フォーラム報告・質疑

## 7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

## 8. その他

1) 連絡事項

2) オブザーバーからのコメント

## 9. 閉会のあいさつ

# 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会設置要領

(設置)

平成24年11月27日より施行

第1条 拠点病院で実施されている情報提供および相談支援体制の機能強化と質的な向上を図ることを目的とする。また、各都道府県や地域単位での取り組みを支援するため、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の下部機関として、情報提供・相談支援部会（以下「部会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 部会は、次の事項について、情報を共有・検討する。

- (1) 都道府県、施設単位で行われている情報提供・相談支援の取り組みに関する現状把握と分析、情報共有に関すること。
- (2) 情報提供や相談支援体制の機能強化や質的な向上を果たす上で必要となる全国、地域レベルで整備すべき体制とサポート要件の整理
- (3) 現場のみでは解決が難しい施策・制度面の改善等の必要事項の整理と（連絡協議会を通じて発信することを想定した）提言に向けた素案の作成

# 本日の内容

1. 開会のあいさつ
2. 本日の概要
- 3. 第3期がん対策推進基本計画の中間評価ならびに小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業について**
4. がんと診断されて間もない人への情報資材作成  
作成・査読・提供・活用・評価について
5. 拠点病院の整備指針に関する調査結果を踏まえた部会としての検討について

# 第3期がん対策推進基本計画の中間評価 ならびに 小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業 について

厚生労働省健康局  
がん・疾病対策課

第16回 都道府県がん診療連携病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会  
令和3年5月27日

# 第3期がん対策推進基本計画 中間評価について

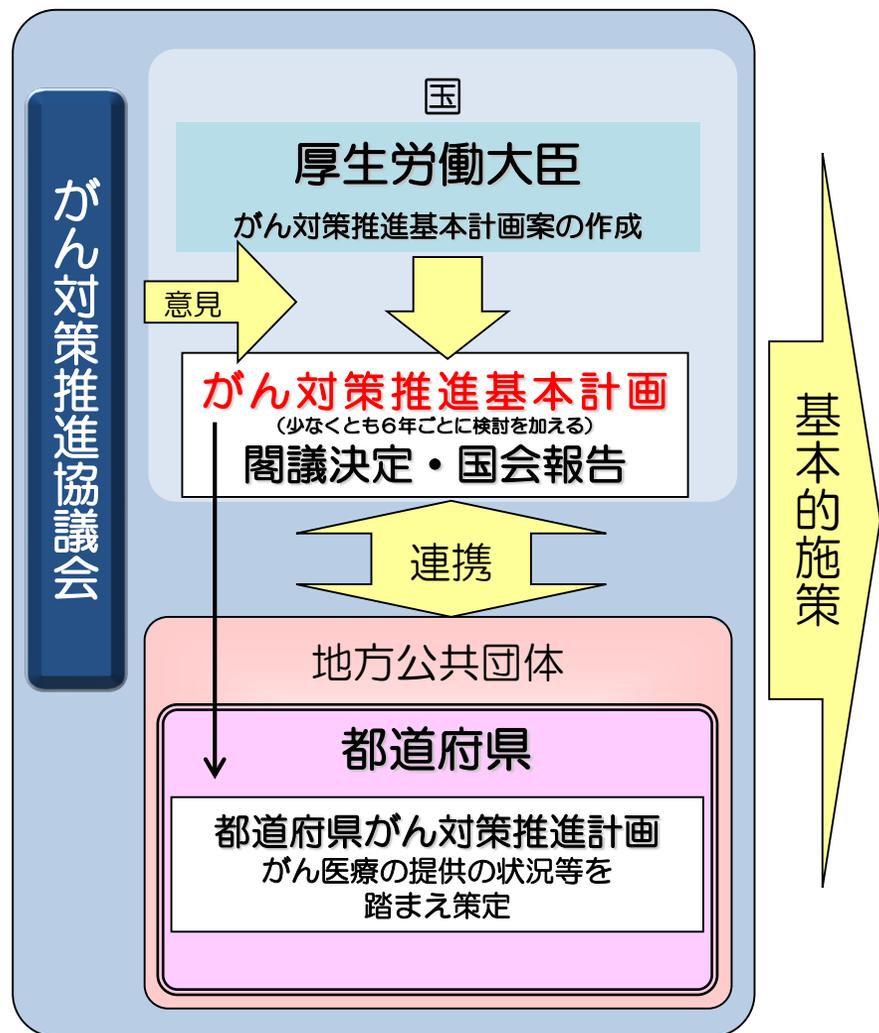
# がん対策の歩み

年次	
昭和37年2月	<u>国立がんセンター設置</u>
昭和56年	悪性腫瘍が我が国の死亡原因の一位となる
昭和58年2月	老人保健法施行(胃がん・子宮頸がん検診の開始 その後、順次対象拡大)
昭和59年4月	<u>「対がん10カ年総合戦略」の開始</u> (第1次～第3次 昭和59年～平成25年)
平成13年8月	地域がん診療拠点病院制度の開始
平成18年6月	<u>がん対策基本法が成立</u>
平成19年6月	がん対策推進基本計画(第1期)
平成24年6月	がん対策推進基本計画(第2期)
平成25年12月	<u>がん登録等の推進に関する法律が成立</u>
平成26年4月	「がん研究10か年戦略」の開始
平成30年3月	がん対策推進基本計画(第3期)

# がん対策基本法 (平成18年法律第98号)

(平成18年6月成立、平成19年4月施行、平成28年12月改正・施行)

がん対策を総合的かつ計画的に推進



## 第一節：がん予防及び早期発見の推進

- がんの予防の推進
- がん検診の質の向上等

## 第二節：がん医療の均てん化の促進等

- 専門的な知識及び技能を有する医師その他の医療従事者の育成、医療機関の整備等
- がん患者の療養生活の質の維持向上
- がん医療に関する情報の収集提供体制の整備等

## 第三節：研究の推進等

- がんに関する研究の促進並びに研究成果の活用
- 罹患している者の少ないがん及び治療が特に困難であるがんに係る研究の促進 等

## 第四節：がん患者の就労等

- がん患者の雇用の継続等
- がん患者における学習と治療との両立
- 民間団体の活動に対する支援

## 第五節：がんに関する教育の推進

- 学校教育等におけるがんに関する教育の推進

基本的施策

国

民

# 第3期がん対策推進基本計画（平成30年3月9日閣議決定）（概要）

## 第1 全体目標

「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」

①科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実 ②患者本位のがん医療の実現 ③尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

## 第2 分野別施策

### 1. がん予防

- (1)がんの1次予防
- (2)がんの早期発見、がん検診  
(2次予防)

### 2. がん医療の充実

- (1)がんゲノム医療
- (2)がんの手術療法、放射線療法、薬物療法、免疫療法
- (3)チーム医療
- (4)がんのリハビリテーション
- (5)支持療法
- (6)希少がん、難治性がん  
(それぞれのがんの特性に応じた対策)
- (7)小児がん、AYA(※)世代のがん、高齢者のがん  
(※)Adolescent and Young Adult: 思春期と若年成人
- (8)病理診断
- (9)がん登録
- (10)医薬品・医療機器の早期開発・承認等に向けた取組

### 3. がんとの共生

- (1)がんと診断された時からの緩和ケア
- (2)相談支援、情報提供
- (3)社会連携に基づくがん対策・がん患者支援
- (4)がん患者等の就労を含めた社会的な問題
- (5)ライフステージに応じたがん対策

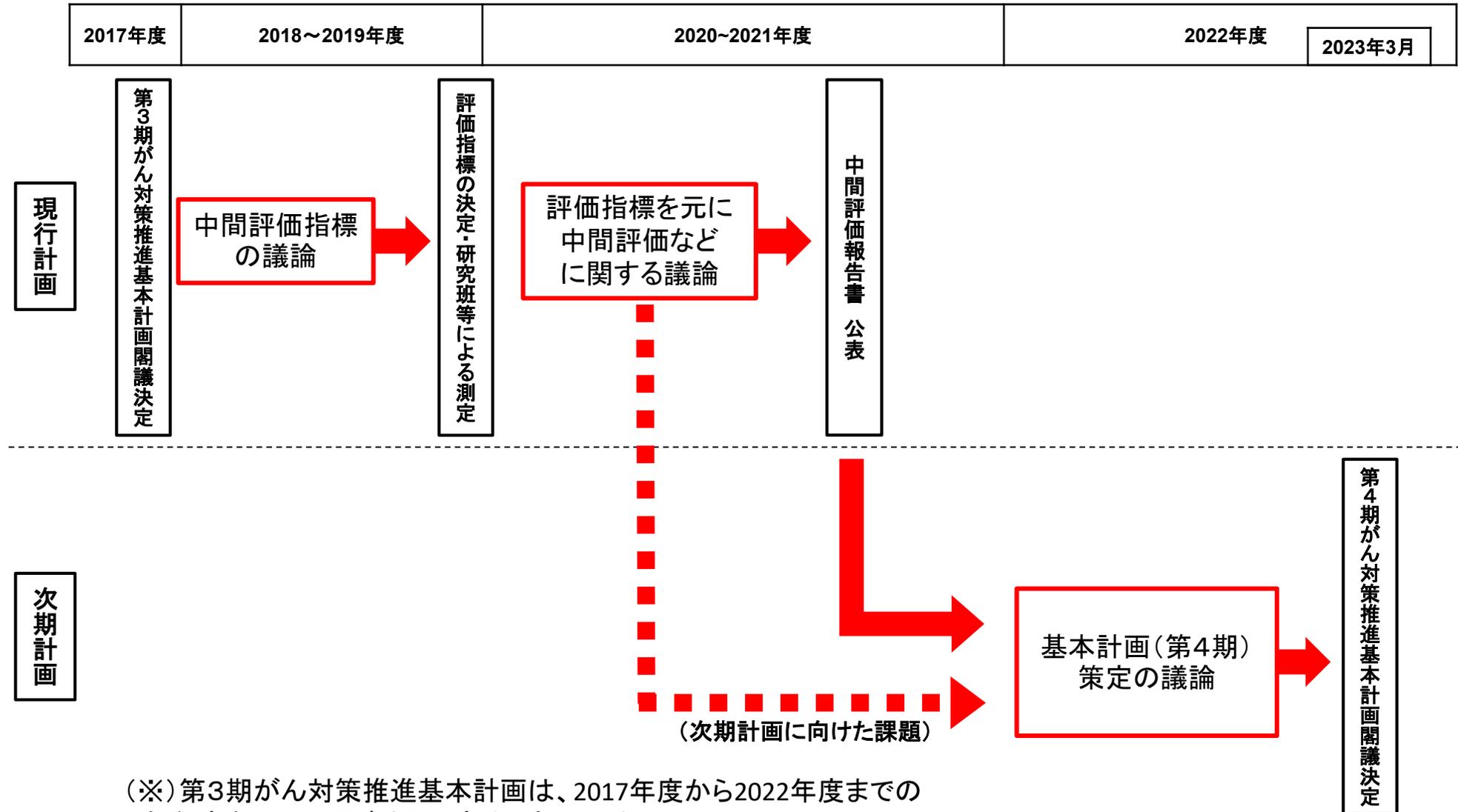
### 4. これらを支える基盤の整備

- (1)がん研究
- (2)人材育成
- (3)がん教育、普及啓発

## 第3 がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

- 1. 関係者等の連携協力の更なる強化
- 2. 都道府県による計画の策定
- 3. がん患者を含めた国民の努力
- 4. 患者団体等との協力
- 5. 必要な財政措置の実施と予算の効率化・重点化
- 6. 目標の達成状況の把握
- 7. 基本計画の見直し

# がん対策推進協議会 今後のスケジュール(案)



(※)第3期がん対策推進基本計画は、2017年度から2022年度までの6年程度を一つの目安として定められている。

- 国は、計画期間全体にわたり、基本計画の進捗状況を把握し、管理するため、3年を目途に、中間評価を行う。その際、個々の取り組むべき施策が個別目標の達成に向けて、どれだけの効果をもたらしているか、施策全体として効果を発揮しているかという観点から、科学的・総合的な評価を行い、その評価結果を踏まえ、課題を抽出し、必要に応じて施策に反映するものとする。

# 中間評価指標に用いる調査

## 医療に関する調査

- 拠点病院現況報告
- 厚生労働科学研究
- 厚生労働省による統計調査（医療施設調査等）等

## がんに関する調査

- がん登録
- 厚生労働科学研究
- 厚生労働省による統計調査（国民健康・栄養調査等）等

## 患者・家族に関する調査

- 患者体験調査
- 遺族調査
- 厚生労働科学研究
- 厚生労働省による統計調査（世論調査等）等

調査や評価指標により、全体・個別のがん施策の進捗や達成度を評価

全体  
目標

個別  
目標

科学的根拠に基づく  
がん予防・がん検診の充実  
【4項目】



(1)がんの1次予防  
(2)がんの早期発見、がん検診  
(2次予防)  
【23項目】

患者本位のがん医療の  
実現  
【6項目】



(1)がんゲノム医療  
(2)がんの手術療法、放射線療法、薬物療法、  
免疫療法  
(3)チーム医療  
(4)がんのリハビリテーション  
(5)支持療法  
(6)希少がん、難治性がん  
(7)小児がん、AYA世代のがん、高齢者のがん  
(8)病理診断  
(9)がん登録  
(10)医薬品・医療機器の早期開発・承認等に  
向けた取組  
【59項目】

尊厳を持って安心して  
暮らせる社会の構築  
【3項目】



(1)がんと診断された時からの緩和ケア  
(2)相談支援、情報提供  
(3)社会連携に基づくがん対策・がん患者支援  
(4)がん患者等の就労を含めた社会的な問題  
(5)ライフステージに応じたがん対策  
【33項目】

第3期がん対策推進基本計画

全140項目

(1)がん研究 (2)人材育成 (3)がん教育、普及啓発 【12項目】

# 第3期がん対策推進基本計画（平成30年3月9日閣議決定）（概要）

## 第1 全体目標

「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」

①科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実 ②患者本位のがん医療の実現 ③尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

## 第2 分野別施策

### 1. がん予防

- (1)がんの1次予防
- (2)がんの早期発見、がん検診  
(2次予防)

第74回(2020/10/16)で  
議論した箇所

### 2. がん医療の充実

- (1)がんゲノム医療
- (2)がんの手術療法、放射線療法、薬物療法、免疫療法
- (3)チーム医療
- (4)がんのリハビリテーション
- (5)支持療法
- (6)希少がん、難治性がん  
(それぞれのがんの特性に応じた対策)
- (7)小児がん、AYA(※)世代のがん、高齢者のがん  
(※)Adolescent and Young Adult: 思春期と若年成人
- (8)病理診断
- (9)がん登録
- (10)医薬品・医療機器の早期開発・承認等に向けた取組

### 3. がんとの共生

- (1)がんと診断された時からの緩和ケア
- (2)相談支援、情報提供
- (3)社会連携に基づくがん対策・がん患者支援
- (4)がん患者等の就労を含めた社会的な問題
- (5)ライフステージに応じたがん対策

第75回(2021/3/11)で  
議論した箇所

### 4. これらを支える基盤の整備

- (1)がん研究
- (2)人材育成
- (3)がん教育、普及啓発

## 第3 がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

- 1. 関係者等の連携協力の更なる強化
- 2. 都道府県による計画の策定
- 3. がん患者を含めた国民の努力
- 4. 患者団体等との協力
- 5. 必要な財政措置の実施と予算の効率化・重点化
- 6. 目標の達成状況の把握
- 7. 基本計画の見直し

小児・AYA世代のがん患者等の  
妊孕性温存療法研究促進事業について

## ● 患者・相談員向けの手引きの作成、普及



厚生労働科学研究費補助金がん対策推進総合研究事業  
**小児・若年がん長期生存者に対する妊孕性のエビデンスと  
 生殖医療ネットワーク構築に関する研究**

科学研究費助成事業「小児・AYA世代がん患者の晩期合併症に対する先制医療開発」

**小児・若年がんと妊娠**  
 Oncofertility for Children and Adolescents

がん患者さんにとって自らの社会生活に直結する性腺機能や妊孕性は重要な問題であり、正しい医学的情報と適切な医療を提供するシステムが不可欠です。そこで我々は、小児・若年がん患者さんに対して性腺機能と妊孕性、妊娠・出産に関する情報提供を目的として、このポータルサイトを開設いたしました。

研究への取り組み | 妊娠・出産における問題点 | 若年がん患者の妊孕性の温存 | 他領域での取り組み | 精神的な問題とそのケア | 用語の説明 | 研究班メンバー

これからがんの治療を開始される患者さんへ



将来の出産をご希望の患者さんへ(乳がん)



がんと妊娠の相談窓口  
 (がん専門相談員向け)



H28厚労科研「小児・若年がん長期生存者に対する妊孕性のエビデンスと生殖医療ネットワーク構築に関する研究」  
 (研究代表: 三善 陽子先生)  
 【URL】 <http://www.j-sfp.org/ped/index.html>

## ● 厚生労働科学研究の取り組み

期間	研究課題	研究代表
R1-	小児・AYA世代がん患者の妊孕性温存治療の生殖医療ネットワークを全国的に均てん化するための研究	鈴木 直
R2-	小児・AYA世代がん患者に対する生殖機能温存に関わる心理支援体制の均てん化と安全な長期検体保管体制の確立を志向した研究	鈴木 直

〈背景〉

○若年者へのがん治療によって主に卵巣、精巣等の機能に影響を及ぼし、妊孕性が低下することは、妊娠・出産を希望する患者にとって大きな課題である。妊孕性温存療法として、胚(受精卵)、未受精卵子、卵巣組織、精子を採取し長期的に凍結保存することがあるが、**高額な自費診療となるため、特に若年のがん患者等にとって経済的負担**となっている。

○一方で、妊孕性温存療法のうち、未受精卵子凍結や卵巣組織凍結については、**有効性等のエビデンス集積が更に求められている**。

○経済的支援に関しては、独自に妊孕性温存療法の経済的支援を行う自治体は増えてきているものの、**全国共通の課題**であり、自治体毎の補助の格差もあることから、**国による支援が求められていた**。



〈事業概要〉

○妊孕性温存療法にかかる**費用負担の軽減を図りつつ**、患者から臨床情報等を収集することで、妊孕性温存療法の有効性等のエビデンス創出や長期にかかる検体保存のガイドライン作成など、**妊孕性温存療法の研究を促進するための事業を令和3年度から開始する**。

○有効性等のエビデンスの集積も進めつつ、**若いがん患者等が希望をもって病気と闘い、将来子どもを持つことの希望を繋ぐ取り組みの全国展開を図る**。

表1：妊孕性温存療法ごとの助成上限額

対象治療	助成上限額/1回
① 胚(受精卵)凍結	35 万円
② 未受精卵子凍結	20 万円
③ 卵巣組織凍結	40 万円
④ 精子凍結	2.5万円
⑤ 精子凍結(精巣内精子採取)	35 万円

# 事業の実施要件について

1. 事業の対象とする妊孕性温存療法について
2. 対象者の要件について
  - (1) 対象者の年齢
  - (2) 対象疾患ならびに対象とする治療内容
  - (3) 対象者の選定方法
  - (4) 説明及び同意
3. 実施医療機関の要件について
  - (1) がん等の治療と生殖医療の連携体制
  - (2) 妊孕性温存療法実施医療機関
  - (3) 原疾患の治療実施医療機関
4. 妊孕性温存療法の有効性等の検証について
  - (1) 収集する臨床情報等の項目
  - (2) 臨床情報等の収集・管理
  - (3) 主要なアウトカム
5. 妊孕性温存療法にかかる助成について
  - (1) 所得制限等
  - (2) 助成回数
6. 国と都道府県の役割について
  - (1) 実施医療機関の指定等の手続き
  - (2) 普及啓発
  - (3) 人材育成
7. 事業の全体像について

# 1. 事業の対象とする妊孕性温存療法について

## 〈対応方針〉

○事業の対象とする妊孕性温存療法は、①胚（受精卵）凍結、②未受精卵子凍結、③卵巣組織凍結、④精子凍結、⑤精子凍結（精巣内精子採取術）とする。

### 【妊孕性温存療法の種類】

- ①胚（受精卵）凍結 ー 体外受精や顕微授精で受精・発育した受精卵を凍結保存する技術
- ②未受精卵子凍結 ー 体外受精、顕微授精する前の卵子を凍結保存する技術
- ③卵巣組織凍結 ー 卵巣を摘出し、卵巣に現存する卵母細胞を含む造卵機能を一度にすべて保存する技術
- ④精子凍結 ー 体外受精、顕微授精する前の精子を凍結保存する技術
- ⑤精子凍結（精巣内精子採取術） ー 精巣内から直接精子を採取して凍結保存する技術

※①～⑤までは国内・海外において妊娠・出産に至った臨床実績が一定程度ある。

※上記の他、精巣組織凍結（精巣を摘出し、精巣に現存する精母細胞を含む造精機能を一度にすべて保存する技術）については、研究段階で臨床にはまだ用いられていない。

※胚（受精卵）凍結は事実婚関係にある者も対象とする。



未婚

- ✓ 月経周期がある
- ✓ 経膈採卵が可能



既婚

- ✓ 月経周期がある
- ✓ 経膈採卵が可能



未婚

既婚

- ✓ 月経周期がなくとも良い
- ✓ 経膈採卵が不可能でもよい
- ✓ 腹腔鏡にて最も治療期間が短い



射精ができ、精子がいる



射精ができるが、精子がない  
精子形成しているが、射精できない

（鈴木直先生提供資料より抜粋・一部改変）

## 2. 対象者の要件について (1)対象者の年齢、(2)対象疾患ならびに対象とする治療内容

### 〈対応方針〉

○高年齢での妊娠・出産は様々なリスクがあること、小児・AYA世代の患者への対策であること、また、特定不妊治療助成制度の対象年齢等を参考に、事業の対象とする方の年齢上限は、男女ともに43歳未満（凍結保存時）とする。

○事業の対象とする方の年齢下限については制限を設けない。ただし、特に低年齢の患者については、がん治療医と生殖医療医による医学的な判断を慎重に行うとともに、できる限り本人やその代諾者（保護者）への説明を丁寧に行った上で実施の決定を行う、などの配慮を行うこと（2（3）及び（4）参照）。

○対象疾患は悪性腫瘍に限定せず、臨床的に適切な判断の下で、以下の治療を受ける必要があると認められる者とする。

・「小児、思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン」（日本癌治療学会）の妊孕性低下リスク分類に示された治療のうち、高・中間・低リスクの治療。

・長期間の治療によって卵巣予備能の低下が想定されるがん疾患：乳がん（ホルモン療法）等

・造血幹細胞移植が実施される非がん疾患：再生不良性貧血等

・アルキル化剤が投与される非がん疾患：全身性エリテマトーデス等

・診療ガイドライン及びリスク分類については、新たに得られた知見に基づき、定期的に更新すること。

（4（3）参照）

・妊孕性温存療法は原疾患の治療中及び治療後に施行した妊孕性温存療法も対象とする。

○子宮摘出が必要な場合など、本人が妊娠できないことが想定される場合は対象外とする。

○妊孕性温存療法を行うことによる原疾患の治療の遅れ等が、生命予後に与える影響が許容される状況でのみ実施すること。

〈対応方針〉

【対象者の選定方法】

○妊孕性温存療法を行うことによる原疾患の治療の遅れが、生命予後に与える影響を評価するため、原疾患担当医師と、生殖医療を専門とする医師（妊孕性温存療法を担当する医師）の両者により検討が行われることを要件とする。

【説明と同意】

○本人による書面同意、または未成年患者の場合は代諾者（保護者）による書面同意とする。

○未成年患者についても十分な説明をする（インフォームドアセントを含む）こと。

○未成年患者が妊孕性温存療法を受けた場合、成人（18歳）に達した時点で、本人の凍結保存継続の意思を確認し、改めて本人から文書による同意を取得すること。

### 3. 実施医療機関の要件について (1)がん等の治療と生殖医療の連携体制

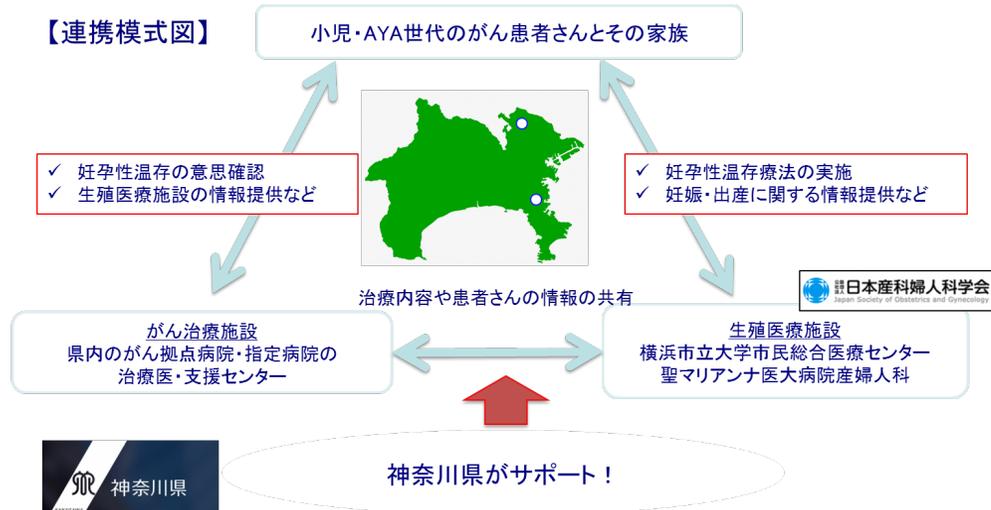
#### 〈対応方針〉

○都道府県でがん・生殖医療の連携ネットワーク体制<sup>(※)</sup>が構築されていることを要件とする。

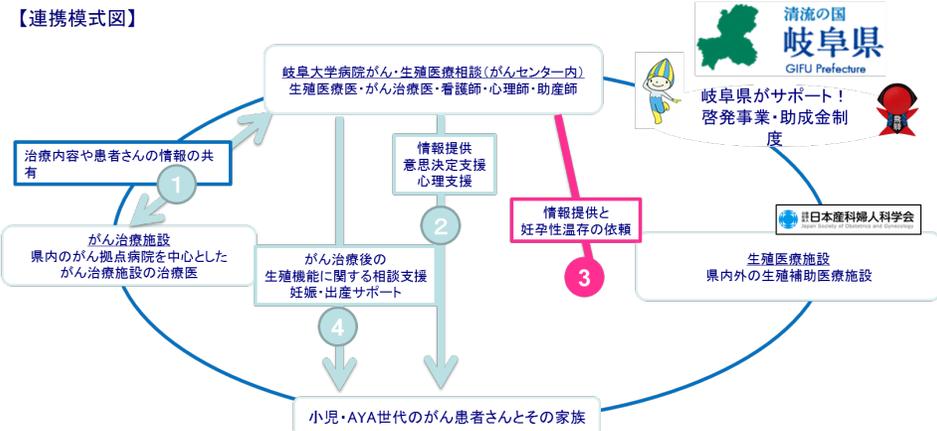
(※)がん・生殖医療の連携ネットワークについて

- ・がん・生殖医療の連携ネットワークとは、各都道府県におけるがん治療施設、生殖医療施設及び行政機関の連携体制のこと。
- ・現在、40都道府県において地域ネットワークについての情報が日本がん・生殖医療学会のウェブサイトで公開されている(令和3年1月現在)。
- ・厚生労働科学研究「がん・生殖医療連携ネットワークの全国展開と小児・AYA世代がん患者に対する妊孕性温存の診療体制の均てん化にむけた臨床研究—がん医療の充実を志向して」(研究代表者:鈴木直)において、がん・生殖医療ネットワーク体制構築を実現するための研究が進められている。

KanaOF-Net(神奈川県がん・生殖医療ネットワーク)



GPOFs(岐阜県がん・生殖医療ネットワーク)



### 3. 実施医療機関の要件について

#### (2) 妊孕性温存療法実施医療機関、(3) 原疾患の治療実施医療機関

〈対応方針〉

【妊孕性温存療法実施医療機関（検体保存機関）】

- 日本産科婦人科学会の医学的適応による未受精卵子、胚（受精卵）および卵巣組織の凍結・保存に関する登録施設又は日本泌尿器科学会が指定した施設（※1）であり、かつ都道府県が指定した医療機関で実施された治療を事業の対象とする。（※2、3）
- 原疾患の治療実施医療機関と連携して、患者への情報提供・相談支援・精神心理的支援を行うこと。

（※1）関係学会専門医の常勤、見解・ガイドラインの遵守、フォローアップ臨床情報の登録、地域がん・生殖医療ネットワークへの参加、妊孕性温存に関する診療・支援等の経験等の要件を満たす医療機関

（※2）検体保存機関と連携する医療機関において卵巣組織等の採取を行うことは可能

（※3）日本産科婦人科学会または日本泌尿器科学会が医療機関を認定するまでの期間については、日本産科婦人科学会の医学的適応による未受精卵子、胚（受精卵）および卵巣組織の凍結・保存に関する登録施設を指定医療機関として指定する。

【原疾患の治療実施医療機関】

- 医学的適応判断に加えて、自施設あるいは他施設と連携して、患者への情報提供・相談支援・精神心理的支援を行うこと。

## 4. 妊孕性温存療法の有効性等の検証について

### (1) 収集する臨床情報等の項目、(2) 臨床情報等の収集・管理、(3) 主要なアウトカム

#### 〈対応方針〉

#### 【収集する臨床情報等の項目】

- 事業参加時点においては、原疾患の診断等に関する基本項目、原疾患治療に関する項目、実施した妊孕性温存療法に関する項目を含むこと。
- フォローアップ期間については、原疾患の転帰情報、妊娠・出産に関する項目、保存検体の保管状況に関する項目を含み、保存検体の追跡可能性を確保すること。
- 事業実施に伴い、必要に応じて収集項目を拡張する。

#### 【臨床情報等の収集・管理】

- 妊孕性温存療法実施医療機関が、定期的（年1回以上）に患者をフォローアップして、自然妊娠を含む妊娠・出産・検体保管状況等の情報を収集すること。
- 日本がん・生殖医療学会が管理する日本がん・生殖医療登録システム（Japan Oncofertility Registry: JOFR）に妊孕性温存療法実施機関が臨床情報等を入力すること。
- 今後は、患者が直接入力する仕組みを検討する。

#### 【主要なアウトカム】

- 有効性・安全性等の評価にあたり、以下の項目を主要なアウトカムとする。
  - ・妊孕性温存療法毎、保存期間毎の妊娠・出産に至る割合（有効性）
  - ・妊孕性温存療法を受けた患者の原疾患治療成績、生殖補助医療の合併症（安全性）
- 有効性・安全性等にかかる評価結果を踏まえ、検体保存や各種妊孕性温存療法にかかるガイドラインについては、新たに得られた知見に基づき、定期的に更新することとする。

## 5. 妊孕性温存療法にかかる助成について (1) 所得制限等、(2) 助成回数

〈対応方針〉

【所得制限等】

○制度の趣旨を踏まえ、所得制限は設けない。

○助成対象となる費用については、妊孕性温存療法に要した医療保険適用外費用の額を上限とする。

【助成回数】

○胚（受精卵）凍結、未受精卵子凍結、精子凍結及び精巣内精子採取については、1患者あたり2回まで助成可能とする。

○卵巣組織凍結については、1患者あたり組織採取時（1回）及び当該組織の再移植時（1回）の計2回まで助成可能とする。

表2：妊孕性温存療法ごとの助成回数

対象治療	助成回数
① 胚(受精卵)凍結	2回まで
② 未受精卵子凍結	2回まで
③ 卵巣組織凍結	2回まで(組織採取時に1回、再移植時に1回)
④ 精子凍結	2回まで
⑤ 精子凍結(精巣内精子採取)	2回まで

## 6. 国と都道府県の役割について

### (1) 実施医療機関の指定等の手続き、(2) 普及啓発、(3) 人材育成

#### 〈対応方針〉

##### 【実施医療機関の指定等の手続き】

- 国は関係学会とも協議のうえ、実施医療機関の要件等につき継続的に検討すること。
- 都道府県は医療機関からの申請に基づき、当該医療機関が実施医療機関として適切であるか否かについて確認したうえで、指定等を行うこと。

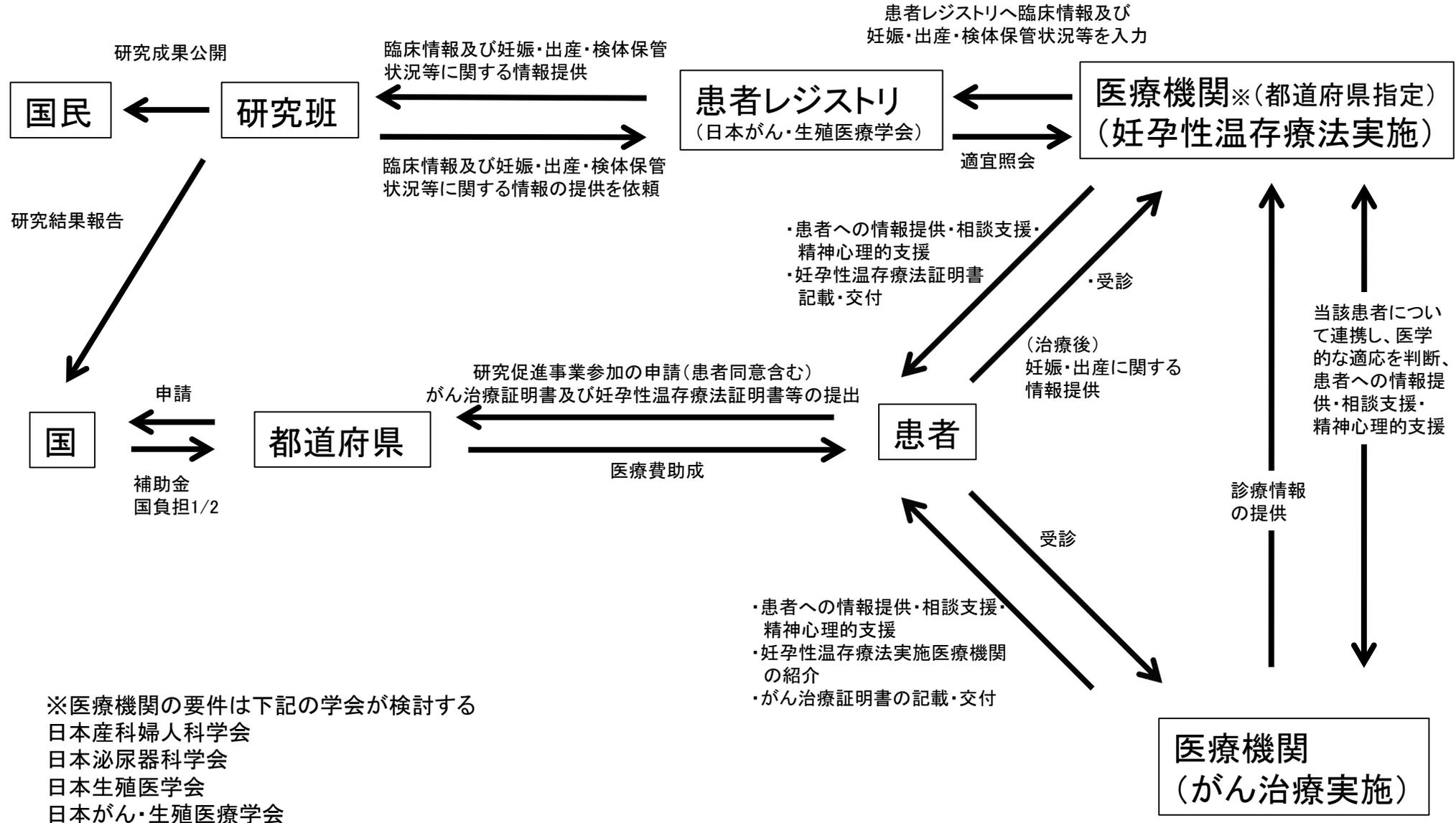
##### 【普及啓発】

- 国は当該事業の実績等をもとに、厚生労働科学研究費補助金等を活用し、最新の知見に基づく普及啓発資材の開発等を行うこと。
- 都道府県はがん治療等を実施する医療機関をはじめ、様々な機会において、住民に対して普及啓発を進めること。

##### 【人材育成】

- 国、都道府県及び関係学会は協力の下、当該治療及び心理社会的ケアを担う人材の更なる育成を進めること。

# 7. 事業の全体像について



- この事業は、若いがん患者等が希望を持って病気と闘い、将来子どもを持つことの希望をつなぐ取り組みです。
- 患者が円滑に事業参加できるよう、情報提供・相談支援等につきよろしくお願いいたします。

**ご清聴ありがとうございました。**



# 本日の内容

1. 開会のあいさつ
2. 本日の概要
3. 第3期がん対策推進基本計画の中間評価ならびに小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業について
- 4. がんと診断されて間もない人向け情報コンテンツ  
作成・査読・提供・活用・評価について**
5. 拠点病院の整備指針に関する調査結果を踏まえた部会としての検討について

# 診断されて間もない人向け情報コンテンツ 作成・査読・提供・活用・評価について

がんと診断されて間もない人への情報資材作成WG

# 第15回 情報提供・相談支援部会での協力依頼について

## ● がんと診断されて間もない人への情報提供資材：がん情報編集委員会企画案

関連資材の刷新に伴い、貴部会のご協力のもと、より適切な情報提供方法も想定した資材作成とする。



### 目的

- 確定診断されて間もない患者に、これから治療を始めるにあたって「聞く、確認する、相談する」といった行動につながるように水先案内をする

### 利用・活用ルート イメージ

- WEBで見る
- がん相談支援センターで冊子を手にとる
- 院内のリーフレットラックで冊子を手にとる
- 医師から冊子を手渡される
- 医師からがん相談支援センターを紹介され、冊子を手にとる
- 図書館などの公共機関のリーフレットラックなどで冊子を手にとる



### 情報量

- 冊子P32版（8000字）

### 公開予定時期

- 2021年度中

# 第15回 情報提供・相談支援部会での協力依頼について

## 部会長より部会委員のみなさまへ

1. このたびの情報作成に関する協力依頼（協力者を募る）を、情報提供・相談支援部会として受けてもよいか。
2. 当部会の課題や課題解決の手段とも合致することから、今回の企画情報作成後の情報の効果的な活用方法については、部会として、積極的に関与、協力していく、としてよいか。

- 「**主治医等から**相談支援センターについて説明する等、診断初期の段階から相談支援センターの周知が図られる体制を整備すること」（H30年7月31日 整備指針より）
- 「**拠点病院のすべての主治医（チーム）が**、すべての患者に、十分な時間をかけて、複数回以上のインフォームド・コンセント、セカンドオピニオンを得るために必要な支援、アドバンス・ケア・プランニング（意思決定支援の対応プロセス）等を行うことを通じて、病初期から治療終了に至るまで、患者にとって、患者自身の意思が尊重されていることを実感できる体制を拠点病院として確立することが必要である」

（第10回 情報提供・相談支援部会 2018/6/12 整備指針において記載すべき事項に関する意見書」参考資料4-2  
[https://ganjoho.jp/med\\_pro/liaison\\_council/bukai/shiryo10.html](https://ganjoho.jp/med_pro/liaison_council/bukai/shiryo10.html)）

## 4 情報の収集提供体制

### (1)がん相談支援センター

① 相談支援センターについて周知するため、以下の体制を整備すること。

ア 外来初診時等に主治医等から、がん患者及びその家族に対し、相談支援センターについて説明する等、**診断初期の段階から相談支援センターの周知が図られる体制を整備すること。**

イ **地域の医療機関に対し、相談支援センターに関する広報を行うこと。**また、地域の医療機関からの相談依頼があった場合に受け入れ可能な体制を整備することが望ましい。

# 情報提供・相談支援部会 検討チーム WGメンバー (敬称略)

(2021年1月14日開始時点)

出江 洋介	東京都立駒込病院	医師／患者サポートセンター長
清水 理恵子	国立がん研究センター中央病院	社会福祉士
松永 直子	国立がん研究センター中央病院	社会福祉士
山内 智香子	滋賀県立総合病院	医師／滋賀県相談支援部会長
岡村 理	滋賀県立総合病院	社会福祉士・精神保健福祉士
伊藤 由美子	兵庫県立がんセンター	看護師
森田 勝	国立病院機構九州がんセンター	医師／がん相談支援センター部長
増田 昌人	琉球大学病院がんセンター	医師／がんセンター長

# 情報資材(冊子)作成の検討過程と今後の予定・ご協力をお願い

年 月	「診断後間もない方向け」の情報資材作成検討チーム		情報提供・相談支援部会
	情報提供・相談支援部会WG	がん情報編集委員会事務局	+ 全国のがん相談支援センター
2020年 12月～ 2021年 1月	【第1回】 1月14日 ・ 基本計画・整備指針、地域の療養情報を確認し、冊子の目指すところ、盛り込む内容に関して意見交換・ディスカッション	・ 基本計画・整備指針・地域のがん情報を確認、関連する内容などを抜粋	
1～2月	【第2回】 2月12日 ・ 骨子案に対する意見交換・ディスカッション	・ 冊子の骨子案を作成	
2～3月	【第3回】 3月19日 ・ 草案に対する意見交換・ディスカッション	・ 冊子の草案を作成	冊子の配り方、実際の相談内容について（kyoten-cisc-MLアンケート）
3～4月	【第4回】 4月8日 ・ 修正草案、表紙、イラスト、タイトル、配り方の検討	・ 冊子の草案の修正、構成、イラストなどについて再検討	
4～5月	【第5回】 5月11日 ・ イラスト入り草案、配り方の検討	・ 冊子の草案の再修正	
<b>5月27日</b>	<b>第16回 情報提供・相談支援部会</b>		
6～7月	・ アンケート①②を踏まえてイラスト、タイトル確定	・ イラスト、タイトルの意見収集→「患者・市民パネル」のみなさんへ（アンケート②）	イラスト、タイトルの意見収集（アンケート①）
7～8月		・ 査読依頼（患者・市民パネル2～4名）	査読協力（2～4名）
9～10月	草案確定	・ がん情報編集委員会 公開前審査	
11～12月			利用開始

# 検討チームで考えた 冊子作成の目的・構成と込めたメッセージ

## 目的

- 診断後間もない方の不安を和らげ、この時期に特に必要な情報を届ける。
- 医師との会話の助けとなること、困ったときには誰かに相談することができることを知ってもらう。
- 冊子をお渡しすることで、医師や医療者から“大切な患者さんへ”お伝えしたいメッセージを伝える。

## 構成とメッセージ（4月時点）

1. がんと告げられたときに不安を感じることは自然なことです
    - 「助けて」を伝えてください
  2. がん相談支援センターでお話してみませんか？
    - どんな些細に思えることでも、どんなタイミングでも相談できる
  3. 納得して決めるために、確かな情報源を押さえましょう
    - 主治医は大切な情報源、「がん情報サービス」は検索の入り口、「がんの冊子」・「地域のがん情報」は情報の道しるべ…など
  4. あなたを囲む医療チームとともに治療のことを考えます
    - 治療、セカンドオピニオン、副作用、妊孕性など
  5. がんになっても生活は続きます
    - 家族への伝え方、仕事、お金、気持ち、支える人のことなど
- あなたのこれからと一緒に

# 主治医チーム（特に医師）にとってのメリット・配布方法

## 主治医チーム、特に医師にとっての冊子利用と配布のメリット

- 伝えたいけれど十分に伝えられない情報の補完
  - 標準治療
  - セカンド・オピニオン
  - 妊孕性（治療を始める前に伝える必要がある情報）
  - 就労支援（仕事をすぐに辞めないで） …等
- 多職種との連携
  - がん相談支援センターのご紹介：困った時には、だれかに相談してほしい！そんな場として利用できる「がん相談支援センター」をいち早くご案内できる

## 配布方法

- 渡す相手：がんと診断されて間もない方（ご本人）
- 渡すタイミング：がんと診断（告知）後できるだけ早めに。診断後～初回治療開始前くらいまでに。
- 渡す人：がん診療連携拠点病院の医師または医療者

# 検討中のサンプル

タイトル：**がん治療にのぞむあなたに知ってほしいこと（仮）**

～がん相談支援センターへ行こう～

# タイトル：がん治療にのぞむあなたに知ってほしいこと（仮）

## ～がん相談支援センターへ行こう～

### 目次

（草案です）

この冊子を手にとってください  
ありがとうございます

がん治療にのぞむあなたに  
これからの道しるべとして読んでいただきたい冊子です

あなたが大切にしていることは何ですか？

3. 納得して決めるために、確かな情報源を  
押さえましょう 【9ページ】

4. あなたを囲む医療チームとともに  
治療のことを考えます 【15ページ】

治療の前に、将来子どもを持ちたいか  
考えることも大切です 【19ページ】

1. がんと告げられたときに不安を感じることは  
自然なことです 【1ページ】

あなたのこれからは  
続きます

出産 育児  
学校 結婚  
生活のこと 家族や 仕事とか  
治療

がんと  
診断されて……

セカンドオピニオンを聞くことも  
できます 【18ページ】

仕事は治療しながら続けることも  
できます 【24ページ】

2. がん相談支援センターでお話ししてみませんか？ 【5ページ】

「聞きたいことも何かわからないんだけど」  
漠然とした気持ちでも構いません

いろいろなお困りごとと一緒に話ししながら  
解決する道を探していきます

5. がんになっても生活は続きます 【21ページ】

あなた：

主治医：

年 月 日

※草稿です

# イラストを入れて、混乱時も読みやすく

(ラフ画／草案です)

## 〈第1章〉

がんと告げられた  
あなたへ、  
最初に伝えたいこと



「いきなり『がん』で言われても…」  
「先生の話がぜんぜん入ってこない」  
「これからどうなるんだろう」  
「誰に相談したらいいのだろう」

## 1 驚き、嘆き、怒り、不安などの感情がわき起こることは自然な心の反応です

がんと告げられるのは衝撃的なことで、動揺するのも無理はありません。

「頭が真っ白になって、記憶がほとんどない」  
「いろいろ決めなくてはいけないの

数日たつと、徐々に悲しみや不安れません。

「なぜ私だけ苦しい思いをしなくて」  
「まさか私が…。がんであるはずが

気持ちが不安定になったり、やり場  
て表れたりすることは、事実を一度  
に起こる、自然な心の防御反応です

## 2 誰かに「助けて」を伝えて欲しい

不安や落ち込みを「一人で解決し  
う人もいるかもしれませんが。しかし」  
に伝えることは、心の痛みが大きいと

## 〈第2章〉

がん相談支援センター  
って、どんなところ？



「先生に聞きたかったことが聞けなかった…」  
「ただただ不安で、何を相談していいかもわからない」  
「治療が始まっていないけど、相談できるの？」  
「治療について、わかりやすく説明して欲しい」

## 1 全国にある、 がんに関する相談窓口です



「がん相談支援センター<sup>\*1</sup>」は、全国の「がん診療連携拠点  
病院<sup>\*2</sup>」などに設置されています。全国の拠点病院については、  
下記のQRコードもしくは検索によりお調べください。

がん相談支援センターには次のような特長があります。

- ・看護師、社会福祉士、公認心理師などが相談員として常駐しており、
- ・窓口での面談だけでなく、電話でも相談できます。
- ・相談は無料です。
- ・患者さんはもちろん、ご家族でも相談できます。
- ・がん相談支援センターがある病院に通っていないなくても、また、匿名でも相談できます。

相談内容を、ご本人の了解なしに主治医をはじめ他の人に伝えることは決してありませんので、安心して相談にいらしてください。

\*1 がん相談支援センターについて、「近いところを探したい」「より詳しく知りたい」という方は、

🔍 [がん情報サービス](#) [がん相談支援センターとは](#)



\*2 がん診療連携拠点病院

全国どこにお住まいでも質の高いがんの医療が受けられるように、厚生労働大臣が指定した施設。

🔍 [がん情報サービス](#) [がん診療連携拠点病院](#)



# 今後のすすめ方

検討チームよりのお願い

## 冊子の査読のご協力

- 作成中の冊子の内容について、査読のご協力をお願いします
  - 医師2名 程度、その他の職種（看護師、社会福祉士、事務員等）2名 程度

## 冊子のタイトルと表紙イラストに関するアンケートへのご協力

- タイトル案、（仮案：私たちの大切な患者さんへ～がん治療にのぞむあなたに知っておいてほしいこと～）表紙イラスト案へのご意見ををお願いします

## 冊子の効果測定のための調査（案）へのご協力

※ 厚労科研研究班と協力し実施します

- 冊子をお渡しいただく診療科の医師
  - 患者さんとの信頼関係が築きやすくなった
  - 説明しやすくなった
  - 大切な説明を忘れなくなった
  - 冊子を利用したい …等
- 相談支援センター
  - ご協力いただく診療科の患者さんの利用人数（初回）
  - 初めて相談支援センターを利用した時期 …等

# 本日の内容

1. 開会のあいさつ
2. 本日の概要
3. 第3期がん対策推進基本計画の中間評価ならびに小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業について
4. がんと診断されて間もない人向け情報コンテンツ作成・査読・提供・活用・評価について
5. 拠点病院の整備指針に関する調査結果を踏まえた部会としての検討について

# 「拠点病院の指定要件に関する意見調査」について

- 第13回 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会（2020/11/05開催）にて「拠点病院の指定要件に関する意見調査」を実施する旨の案内
    - - 厚労省研究班が実施、全ての拠点病院が対象
      - がん診療連携拠点病院等の実態把握とがん医療提供体制における均てん化と集約化のバランスに関する研究（代表：若尾文彦）
    - - 2020年度内に実施予定→現在準備中
- ➔ こちらの調査結果をもとに、情報提供・相談支援部会として検討すべき課題や提言内容について、協議をしていく。
- さらに意見収集が必要な場合には、アンケート等実施させていただく予定です。ご協力をお願いします。

休憩

# 本日の内容

## 6. 地域相談支援フォーラム報告・質疑

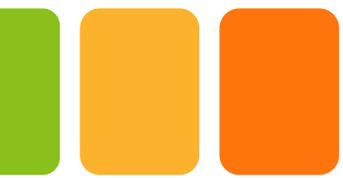
## 7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

## 8. その他

1) 連絡事項

2) オブザーバーからのコメント

## 9. 閉会のあいさつ



# 令和2年度 北陸地区地域相談支援 フォーラムご報告

金沢大学附属病院

がん相談支援センター／地域医療連携室

MSW岩谷玲香

## 石川県の概要

- 人口114.1万人（人口・面積とも全国のほぼ1/100の規模）
- 4つの2次医療圏（石川中央、南加賀、能登中部、能登北部）
- 能登半島が日本海に突き出し南北に長い
- 2015年3月北陸新幹線が開業
- 保育所普及率は全国7位、待機児童はゼロ
- 人口あたりの大学の数、全国2位



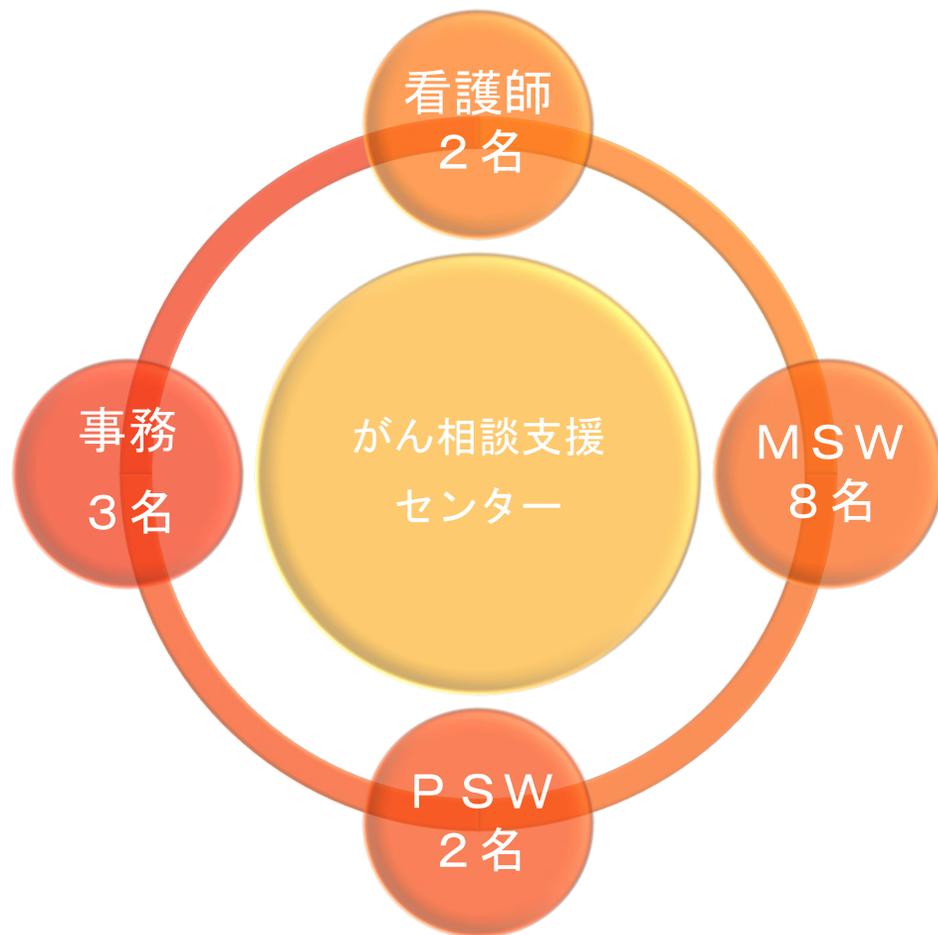
## 金沢大学附属病院の概要

- 特定機能病院、がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院  
造血幹細胞移植推進拠点病院、がんゲノム医療拠点病院、  
小児がん連携病院
- 病床数830床（一般病床床792、精神病床38床）
- 平均在院日数15.3日
- 病床使用率71.47%
- 紹介率88.1%
- 逆紹介率90.4%
- 在宅復帰率96.4%
- 入院患者延べ数254,407人
- 外来患者延べ数346,968人
- 外来新患者数13,961人
- 手術件数8,281人



# がん相談支援センター概要

- 平成19年7月設立



# がん相談支援センター概要

がん相談にまつわるさまざまな生活課題に対し情報提供・傾聴等

## 相談件数

令和2年度 4600 件

(厚労省指定相談カウント方法)

## 主な相談内容：

在宅療養、転院、  
医療費含め経済的な支援策 等

**1 外来 → 入院 → 退院  
切れ目のない療養支援**

当院での治療計画に応じて、外来・入院・退院切れ目がなく不安の少ない療養生活を送ることができるよう支援しております。  
当院の入院期間は非常に短く、退院を迎える際に患者さんがお困りにならないよう、入院が決まった時から退院を見届えた支援に取り組んでおります。

**2 仕事・経済・社会保障等、病気に伴う様々な支援**

治療と仕事の両立、休職中の保障、医療費支払いの見通しが立たない、何か利用できる制度はないか等、病気に伴う様々な相談に対応しております。

**3 がんに関する様々な支援**

治療・療養・生活・仕事・経済面・緩和ケア・がんサロンなど、がんに関する様々な相談に対応しております。

**●対応日時** / 月～金(病院休診日除く)  
午前9時～午後5時 (予約制)

**●相談場所** / 金沢大学附属病院3階  
地域医療連携室 / がん相談支援センター

**●相談員** / 看護師、医療ソーシャルワーカー 他

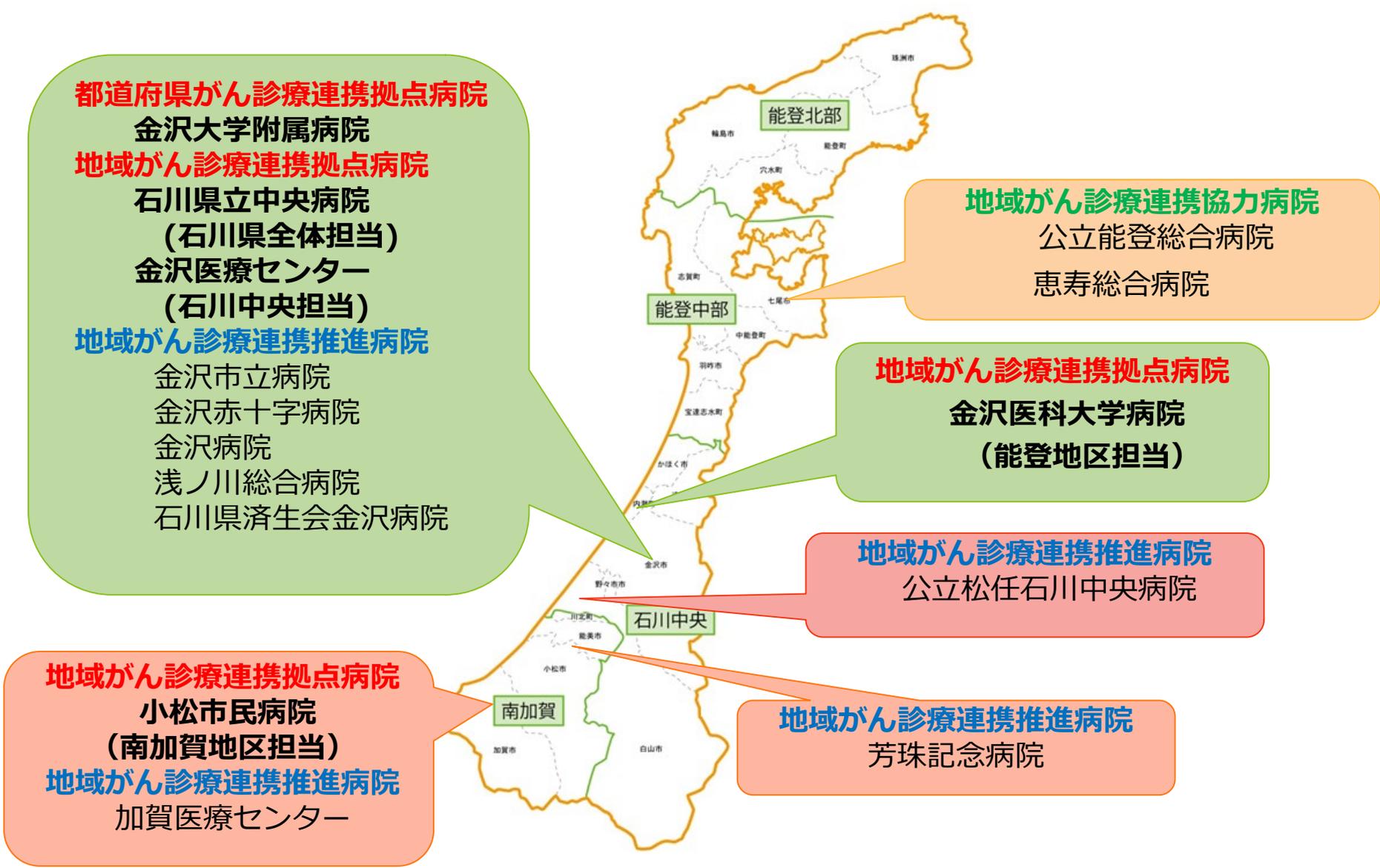
**●責任者** / 地域医療連携室長・がんセンター長

～ご相談の内容に応じ、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・関係機関等との連携体制を整えております～

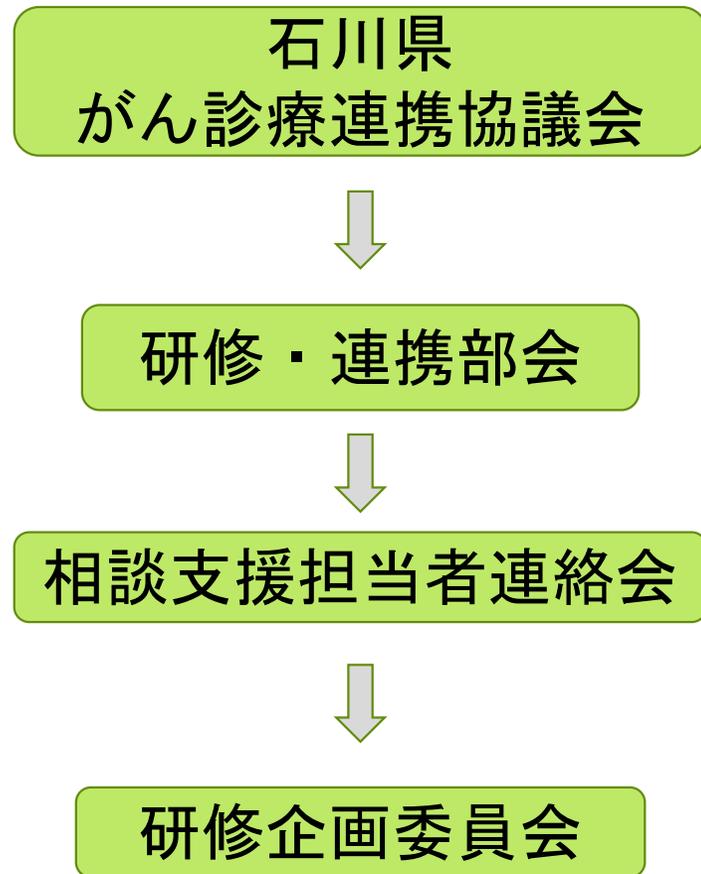
**院内地図 3F**

**予約・問合せ**  
金沢大学附属病院 地域医療連携室 / がん相談支援センター  
TEL 076-265-2040 (直通 / 平日午前9時～午後5時)

# 石川県のがん相談支援センター



## 石川県がん診療連携協議会



- 相談支援担当者連絡会  
(15医療機関で構成)
- 相談支援に関する情報共有・協議を行う
- 研修企画委員会  
(9医療機関で構成)
- 「がん相談支援センターの相談員として対応力と質向上を目指す」研修の企画・運営を行う

# 北陸地区地域相談支援フォーラム開催概要

- 日時：令和2年11月28日（土）13:00～15:50
- 参加方法：オンライン Webex
- 目的：  
北陸3県のがん相談支援の状況を知り連携ができる  
相談員として対応力と質の向上を目指す
- テーマ：  
「その方の気持ちを聴いて、受け止めること  
から始まる相談支援」
- 講師：  
国立がん研修センターがん対策情報センター  
櫻井雅代氏

令和2年度  
WEB開催  
北陸地区 地域相談支援フォーラム  
富山県、福井県、石川県の現状  
「その方の気持ちを聴いて、  
受け止めることから始める相談支援」  
日時 令和2年11月28日（土）13:00～15:50  
プログラム：  
13:00～ 開会あいさつ  
13:10～ 各県の取り組み  
13:40～ 各県のがん相談支援センターの取り組み  
14:35～ 講演：傾聴と共感  
～その先を見据えたがん相談の本質～  
講師：国立がん研究センター  
がん対策情報センター 櫻井雅代先生  
15:45～ 閉会あいさつ  
申込 オンライン登録で受付（一端末一人で参加必須）  
がん相談支援 地域相談支援フォーラム  
[https://ganjoho.jp/med\\_pro/consultation/index.html](https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/index.html)  
対象 北陸3県のがん相談支援センターに所属する相談員  
主催：石川県がん診療連携協議会  
共催：富山県がん診療連携協議会 福井県がん診療連携協議会  
富山県 福井県 石川県  
問い合わせ：金沢大学附属病院 がん相談支援センター  
電話 076-265-2040



## 実行委員について

### 石川県

金沢大学附属病院  
金沢医科大学病院  
公立松任石川中央病院

### 富山県

富山県立中央病院  
高岡市民病院

### 福井県

福井県立病院  
福井大学医学部附属病院

- 石川県では、  
テーマなどの詳細を決定  
金沢大学附属病院  
金沢医療センター  
石川県立中央病院  
金沢医科大学病院  
小松市民病院  
公立能登総合病院  
石川県済生会病院  
芳珠記念病院  
公立松任石川中央病院  
(研修企画委員会 9医療機関)



## テーマ選定について

- がん相談におけるACPとは
- 経済的な不安がある方の終末期の支援とは
- 一人暮らし、支援者に乏しい方の療養支援とは
- AYA世代の支援とは
- 患者・家族の立場に立った相談支援とは



日々の相談支援の  
もやもや・・・

## テーマ選定について

- 基本姿勢である「傾聴する」とはどのようなことか？
- 相談者は満足できたのかな？
- 何をもとに支援を振り返る？

これで  
よかったの  
かなあ...

「傾聴する」を具体化し、  
振り返りの時の指標や根拠を理解することで  
実践に結び付ける（質の向上を目指す）



## オンライン開催について

- COVID-19の感染拡大の影響で、広域研修が開催できるのか
- 感染状況に合わせて開催の有無を決定できるのか  
→WEBによる研修の開催へ
- どのようなツールを利用しようか  
→担当事務局である金沢大学が推奨しているWebexへ
- 運営できるのか  
→WEB開催のエキスパートはいない . . .

企画委員が何度も繰り返し  
WEBを利用するしかない

# Web開催によって加わった準備

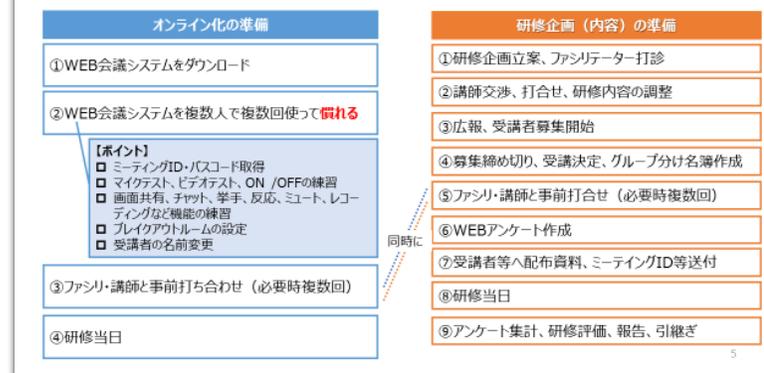
- 機材
- システム
- Web環境
- 人員
- Webアンケートの作成
- 配布資料
- ミーティング番号送付手段
- 開催中の3県事務局の連絡体制

## オンライン研修 企画者（ホスト）の手引き

2020年11月 Vol.1  
国立がん研究センターがん対策情報センター  
がん相談支援センター相談員研修担当

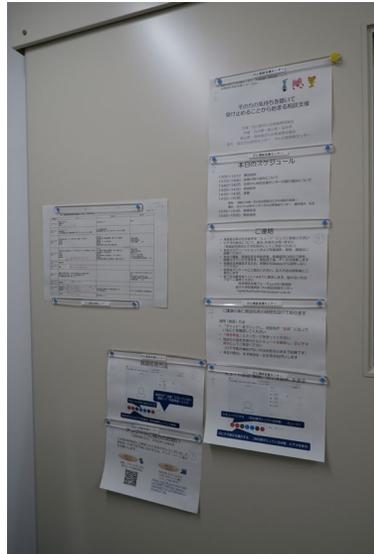
1

### 事前準備から当日までの流れ（例）



5

## 事務局の様子



- 石川県・富山県・福井県のがん診療拠点病院のがん相談支援センターのスタッフが各県の事務局を担う

石川県：金沢大学附属病院

富山県：富山県立中央病院

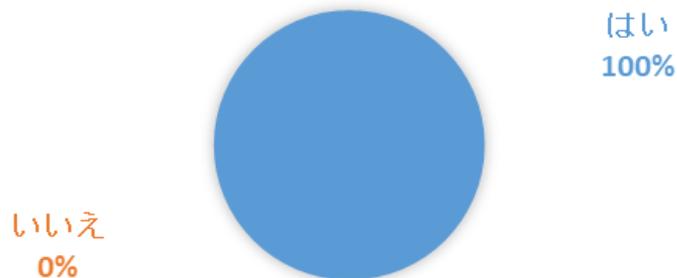
福井県：福井県立病院



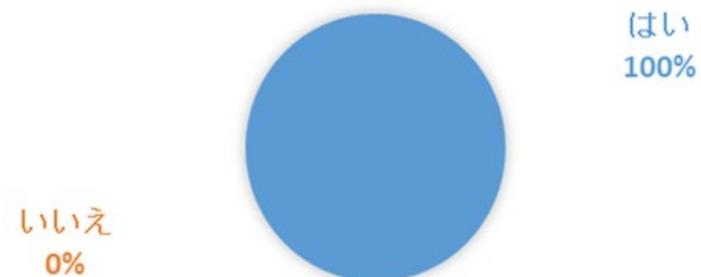
## アンケート結果について

- 参加者 88名
- アンケート回収数 65
- 回収率 73.8%

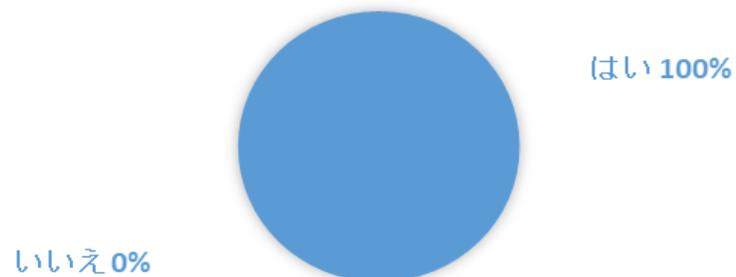
研修会のテーマは  
関心のある内容でしたか



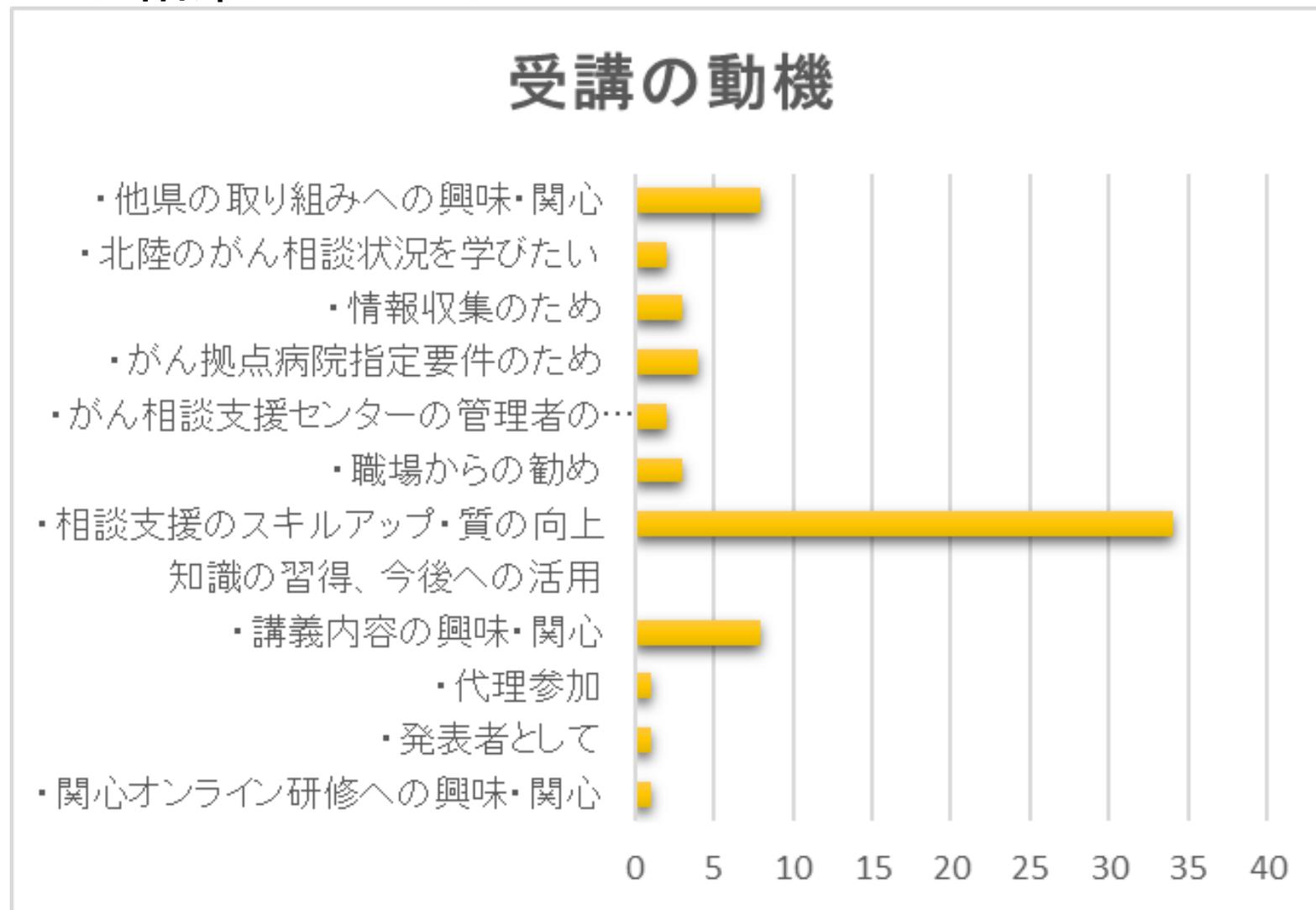
他県のがん相談支援センターの  
取り組みは参考になりましたか



研修会の内容は  
今後に活かそうですか

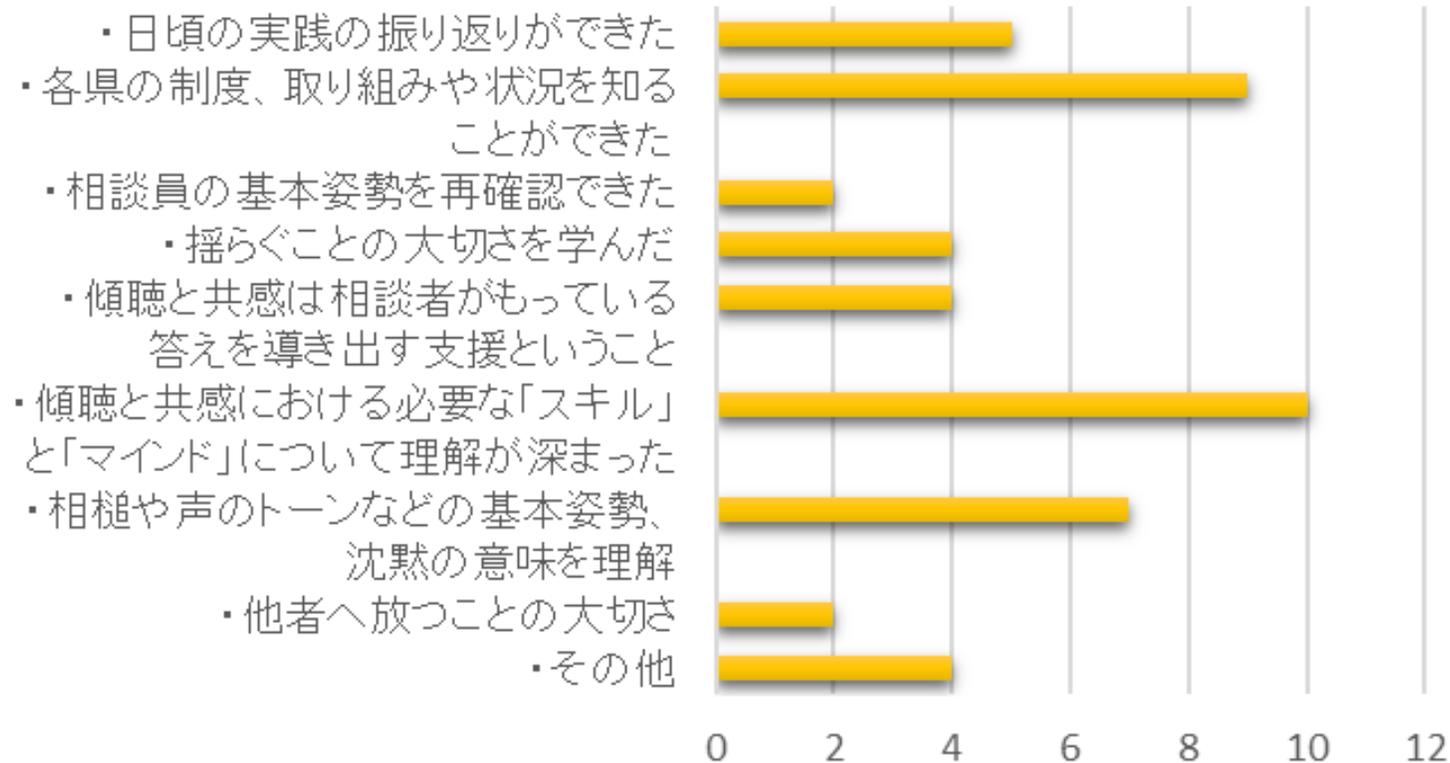


## アンケート結果について



## アンケート結果について

### 講義の中でよく理解できた点、 もしくは印象に残った点



## アンケート結果について

### オンラインでの開催について感想





## 開催を振り返って

### 《開催まで》

- Webシステムに慣れていない
- 操作方法がわからない場合の対処法を調べるには

### 《開催中》

- 参加者の参加状況の把握するルール作り
- 実行委員、参加者ともにリアクションを大きくしみんなで楽しむ
- ブレイクアウトルームを利用する

### 《開催後》

- 整理した課題を次につなげられるのか

# 今後の 北陸地区地域相談支援フォーラムについて

- 令和3年度

主催 富山県

富山県がん診療拠点病院

富山県立中央病院



- 令和4年度

主催 福井県

福井県がん診療連携拠点病院

福井県立病院



ご清聴ありがとうございました



# 本日の内容

6. 地域相談支援フォーラム報告・質疑

7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

8. その他

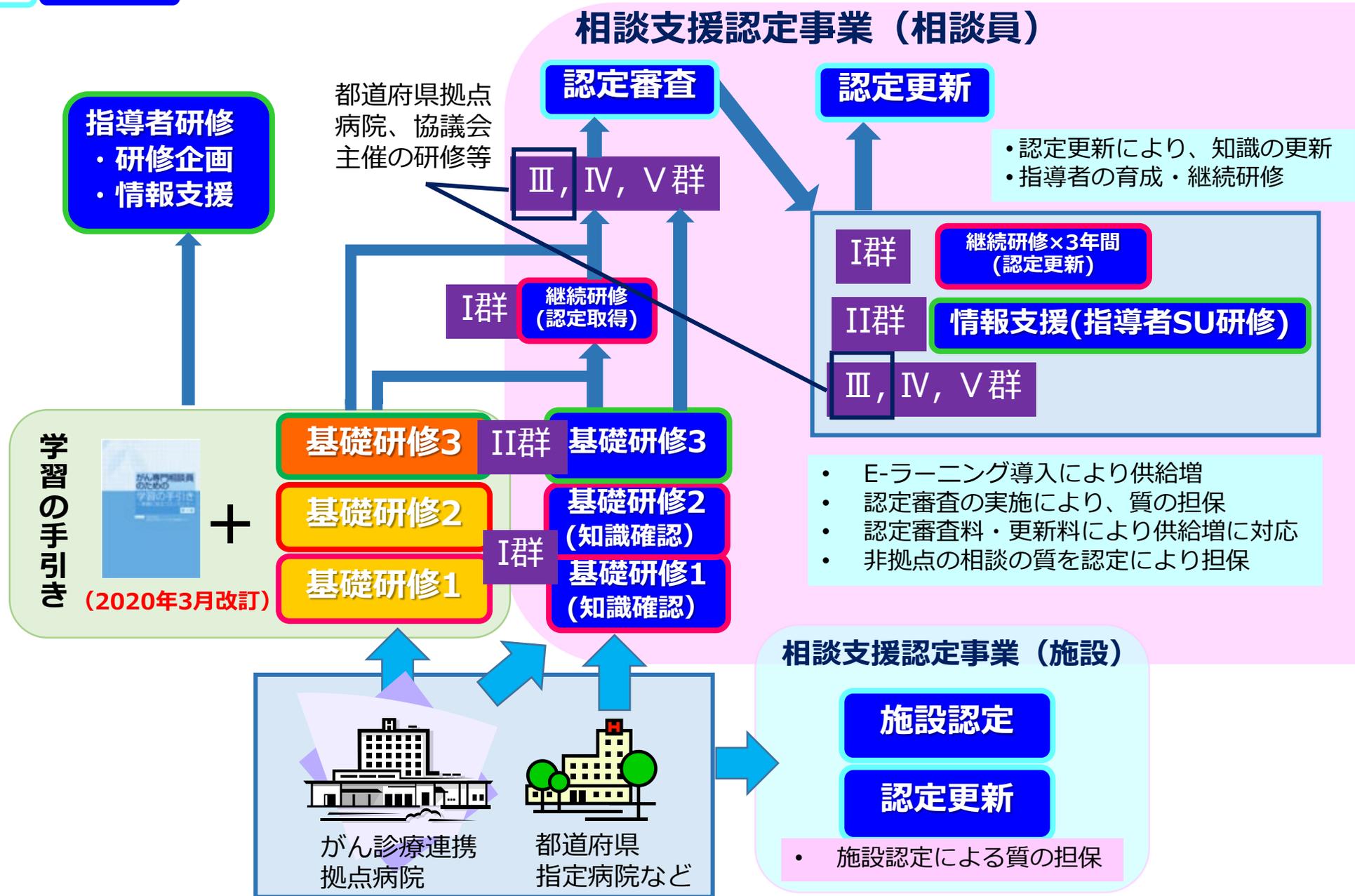
1) 連絡事項

2) オブザーバーからのコメント

9. 閉会のあいさつ

# 相談員研修、国立がん研究センター 認定事業について

# がん専門相談員の育成





# がん対策情報センターで提供する研修プログラム

形式	プログラムカテゴリ	指定要件の有無	主目的
	学習の手引き(第3版)	—	全相談員が利用できる相談員の副読本 (2020年3月改訂済)
E-learning	基礎研修(1)(2) (研修修了/知識確認)	○	基礎的知識の習得
	継続研修 (認定取得/認定更新)	—	基礎的知識のアップデート
	アップデート研修	—	トピック的知識の習得
集合研修	基礎研修(3)	○	対象者理解、地域のファシリテータの育成
	指導者研修	○ 都道府県拠点	地域の研修企画者の養成
	指導者等スキルアップ研修	—	全国に普及したい研修プログラムの先行提供 (「情報支援」を重点的に提供)
コンサル	研修企画コンサルテーション	—	地域で研修を企画するにあたり抱えている問題・課題の解決 (オンデマンド形式)

国立がん研究センター がん情報サービス ganjoho.jp 医療関係者向けサイト

診療支援 研修・セミナー 多地点テレビカンファレンス

がん相談支援 予防・検診 拠点病院連絡協議会

ピックアップコンテンツ

がんの臨床試験を探す 病理診断コンサルテーション

がん登録・統計

病院を探す

お知らせ

2020年05月29日 「がんの...」

2020年05月25日 「新型...」

がん相談支援

がん相談支援センターの円滑な運営をサポートするための情報やツールを提供しています。

■がん相談支援センター相談員研修の概要 ■地域相談支援フォーラム ■がん相談支援センター相談員サポート ■国指定がん診療連携拠点病院サポートページ

■がん相談支援センター相談員研修の概要

研修の詳細については、「研修・セミナー」をご覧ください。

- 国立がん研究センターにおけるがん相談支援センター相談員の育成に関する教育・研修プログラム提供方針(PDF:340KB)
- 令和3年度「相談対応の質保証を学ぶ」研修講師派遣依頼の募集の開催予定について
- 地域開催の研修企画コンサルテーション(随時)のご案内
- がん相談支援センター相談員のためのガイドブック

更新情報

- 2021年04月27日 「がん相談支援センター関連ロゴ・バッジのご案内」(要ログイン)ページ内容全体を更新しました。
- 2021年04月26日 「令和3年度「相談対応の質保証を学ぶ」研修 講師派遣依頼の募集の開催予定」を掲載しました。
- 2021年04月23日 「相談対応の質保証(QAQuality Assurance)のための音声教材についてのご案内」(要ログイン)を掲載しました。
- 2021年04月15日 「がん情報サービス刊行物発注システムのご案内」注文できる

下にスクロール

【平成24年度】

■がん相談支援センター相談員サポート

- がん相談支援センター相談員のためのガイドブック
- がん相談支援センター相談員のためのガイドブック
- がん相談支援センターに関するQ&A
- がん相談支援センター「相談のための基本形式」を用いた相談記録のための記入シートおよび入力ツールのご案内
- がん情報サービス刊行物発注システムのご案内
- がん対策情報センター作成「がんの書籍」の普及・活用支援ツール
- 現実障害のある方への情報提供支援のご案内
- 新型コロナウイルスQ&A 4/24/21

■国指定がん診療連携拠点病院等サポートページ

旧「都道府県がん診療連携拠点病院向け」、「がん相談支援センター相談員指導者研修修了者向け」、「都道府県がん相談員研修連絡担当者向け」サポートページを統合いたしました。

(閲覧には、都道府県がん診療連携拠点病院専用のID、パスワードが必要です。ID、パスワードは都道府県がん診療連携拠点病院メーリングリストにてご案内をいたしましたのでご確認ください。不明な場合には「がん情報サービス事務局」までお問い合わせください)

地域開催の研修企画コンサルテーション(随時)のご案内

更新・確認日:2019年04月16日【履歴】

■本事業の目的

2018(平成30)年に発出された「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」では、都道府県がん診療連携拠点病院の指定要件として、「地域拠点病院、特定領域拠点病院、地域がん診療病院内の相談支援に携わる者に対する継続的かつ体系的な研修を行うこと」が求められています。国立がん研究センターでは、相談員を対象とした研修企画に必要な知識を学ぶための「指導者研修」を提供していますが、僅か数日の研修のみで地域の研修を企画・運営することは困難を伴うのが当然です。

昨今の相談支援センターが担う業務は、がんゲノム医療や生体機能温存に関する相談など拡大の一途をたどっています。また、がんに関する医療情報は随時更新されていますし、がん患者、家族の支援ニーズは多様化、深刻化しています。

がん相談支援センター相談員研修の概要

- 令和3年度「相談対応の質保証を学ぶ」研修 講師派遣依頼の募集の開催予定について
- 2020年度「相談対応の質保証を学ぶ」研修 講師派遣依頼の募集の開催予定について
- 平成30年度「相談対応の質保証を学ぶ」研修 講師派遣依頼の募集の開催結果について
- 平成31年度「相談対応の質保証を学ぶ」研修 講師派遣依頼の募集の開催結果について
- 地域開催の研修企画コンサルテーション(随時)のご案内
- 研修教材公開収録会「がん専門相談員に必要ながんゲノム医療の基本を学ぶ」(2018.12)のご案内

地域相談支援フォーラム

## 研修企画コンサルテーション

がん相談支援センター相談員のためのガイドブック

更新・確認日:2020年03月09日【履歴】

がん相談支援センター相談員、相談支援の体制をつくる時や、相談対応をするときに役立つガイドとして使えるよう、手引きやヒント集の形でまとめたものです。ぜひご利用ください。

下記よりダウンロードできます。※のある3冊については1冊単位での購入が可能です。施設ごとに冊子件をご希望の場合は、「がん情報サービス刊行物発注システムのご案内」をご覧ください。

- 「がん専門相談員のための学習の手引き〜実践に役立つエッセンス〜(第3版)」(PDF:8,208KB)
- 「がん専門相談員のための「社会保険労務士との連携のヒント集」」(PDF:2,569KB)
- ※

がん相談支援センター相談員研修の概要

地域相談支援フォーラム

がん相談支援センター相談員サポート

■がん相談支援センター相談員のためのガイドブック

「がん専門相談員のための学習の手引き〜実践に役立つエッセンス〜(第3版)」(PDF:8,208KB)

「がん専門相談員のための「社会保険労務士との連携のヒント集」」(PDF:2,569KB)

※

がん相談支援センター「相談のための基本形式」を用いた相談記録のための記入シートおよび入力ツールのご案内

がん情報サービス刊行物発注システムのご案内

がん対策情報センター作成「がんの書籍」の普及・活用支援ツール

現実障害のある方への情報提供

## 学習の手引きPDF

# 7月リニューアル後のがん情報サービス

国立がん研究センター  
がん情報サービス ganjoho.jp

サイト内検索

医療関係者向け

がん統計

がんの臨床試験を探す

病名から探す | がんの治療と生活 | 制度やサービスを知る | がんの予防・検診 | 資料室

## あなたに寄り添い、役立つがんの情報をお届けします

当サイトは、国立がん研究センターが運営する公式サイトです。

### 病名から探す

がんの種類から探す

### 部位・臓器から探す

### 50音順から探す

### 一覧から探す

### 日本に多いがん

- 大腸がん (結腸がん・直腸がん)
- 胃がん
- 肺がん
- 膵臓がん
- 肝細胞がん
- 前立腺がん
- 乳がん

※新たに診断される患者数が、1年間に10万人あたり30人以上のがんを「日本に多いがん」として掲載しています。こちらにお示しした以外のがんは、「部位・臓器から探す」または「50音順から探す」の入り口からお入りください。

相談先・病院を探す

国立がん研究センター  
がん情報サービス ganjoho.jp

サイト内検索

医療関係者向け

がん統計

がんの臨床試験を探す

がん対策情報 | 医療支援・相談支援 | 研修 | 拠点病院連絡協議会・フォーラム

## 医療関係者向け情報

情報を絞り込む:  すべて  行政担当者

### がん対策情報

- 診療に関する情報
- 予防に関する情報
- がん検診
- がん登録
- がん対策に関連する情報へのリンク集
- 地域のがん情報

国立がん研究センター  
がん情報サービス ganjoho.jp

サイト内検索

医療関係者向け

がん統計

がんの臨床試験を探す

がん対策情報 | 医療支援・相談支援 | 研修 | 拠点病院連絡協議会・フォーラム

## 医療支援・相談支援

相談支援

- がん対策情報センター主催相談員研修
- 地域開催の相談員研修
- がん相談支援センター相談員サポート
- 国指定がん診療連携拠点病院等サポート
- 小児がん患者就学支援

### がん対策情報

- 診療に関する情報
- 予防に関する情報
- がん検診
- がん登録
- がん対策に関連する情報へのリンク集
- 地域のがん情報

### 医療支援

相談先・病院を探す

# 2021年度 相談員研修スケジュール①

E-learning	科目数	費用(税込)	申込期間	受講期間
基礎研修(1)(2)				
研修修了コース	19科目	無料	2月16日～8月末日	2月16日～10月末日
知識確認コース	19科目	18,150 (テキスト代込)	2月16日～8月末日	2月16日～10月末日
継続研修				
認定取得コース	27科目	16,500	6月1日～10月末日	6月1日～11月末日
認定更新コース	27科目 (必修8/ 選択19科目)	5,500 or 無料 (認定時期により)	6月1日～10月末日	6月1日～11月末日
アップデート				
がんゲノム医療	4科目	無料	4月28日～10月末日	4月28日～11月末日

# 2021年度 相談員研修スケジュール②

集合研修	定員	日程	費用(税抜)	申込期間	受講日	開催形式
基礎研修(3)						
国指定コース	36	2日間	無料	4月6日～12日	①6/12(土)・13(日) ②6/16(水)・17(木) ③6/20(日)・21(月) ④6/22(火)・23(水) ⑤6/26(土)・27(日)	オンライン
非拠点コース		2日間	33,000			
指導者研修						
指導者	45	4日間	33,000	4月5日～12日	前期：6/29(火)・30(水) 後期：11/4(木)・5(金)	オンライン
指導者スキルアップ研修						
相談対応の質保証を学ぶ	なし	1日間	5,500	6月4日～7月4日	8/3(火)	オンライン
情報から始まるがん相談支援	30	2日間	22,000	7月1日～19日	11/4(木)・5(金)	オンライン
情報支援・相談対応モニタリング	12	2日間	22,000	10月25日～ 11月30日	2/17(木)・18(金)	オンライン

# がん対策情報センターでの オンライン研修について

## ■事前にご準備いただきたいこと

- 安定した通信環境（有線LANやWi-Fi）の確保
- 集中して受講できるよう会議室や個室等の確保
- ネット環境の接続確認を事前に実施し、メンテナンススケジュールの確認
- トラブル時の対処法についてWEB会議システムやPC操作に慣れた方への事前確認。  
また、必要時に協力が得られるよう事前の手配
- インターネットの接続が切れた場合の代替手段の確保

## ■ 必要物品

- ZoomやMicrosoft officeをインストールしたPC（参加者毎に1台）
- Webカメラ・スピーカー・マイク（PC内蔵でも可）
- 同じ施設から複数の受講生が参加し、会場をわけることが困難な場合は、  
人数分のヘッドセットマイクの準備

**各都道府県のオンライン研修の環境整備に  
ご協力をお願いします**

# 2021年度 基礎研修(3)について (経緯)

- 第15回部会には、ハイブリッド型を予定しているをご案内し、会場提供をお願いした。（2020年11月26日）
- その後、COVID-19の感染拡大・長期化が予想されたため、完全オンライン化に移行する旨をご案内（2020年12月11日）
- 完全オンライン実施での募集（2021年4月6日～11日）
  - 初めてのオンライン開催のため、グループワークの人数を少人数（通常1グループ8名→6名）、2会場の同時並行開催の見合わせにより、通常であれば1日程あたり96人が受講するところ、1日程あたり36人での実施
  - 例年通り5日程を確保したが、受講可能人数は180人に留まる
- 追加開催枠（10月）を設定

# 2021年度 基礎研修(3)の開催予定について

- ①（当初予定）6月オンライン開催： 5日程（定員180名；各回36名）
- ②（追加開催）10月オンライン開催： 2日程（定員72名；各回36名）

## 【受講可否の状況】

- 定員180名を大きく上回る応募があった。
- 例年通り、整備指針に関わる可能性のある方を優先して①の受講者を決定
- 2020年度受講確定のご案内をしながら、開催中止となり受講できなかった方のうち、本年度も応募されたが、①に入れなかった方が一定数いらっしゃった。  
=> この方たちが受講できるよう2日程を追加開催（対象者には既に通知済）

**ご希望通りの受講枠を確保できなかった方には申し訳ありません。**

**ご理解のほどお願い申し上げます。**

**また、実施にあたっては多くの相談員の皆様にファシリテータとして  
ご協力をお願いすることになります。どうぞよろしくお願いいたします。**

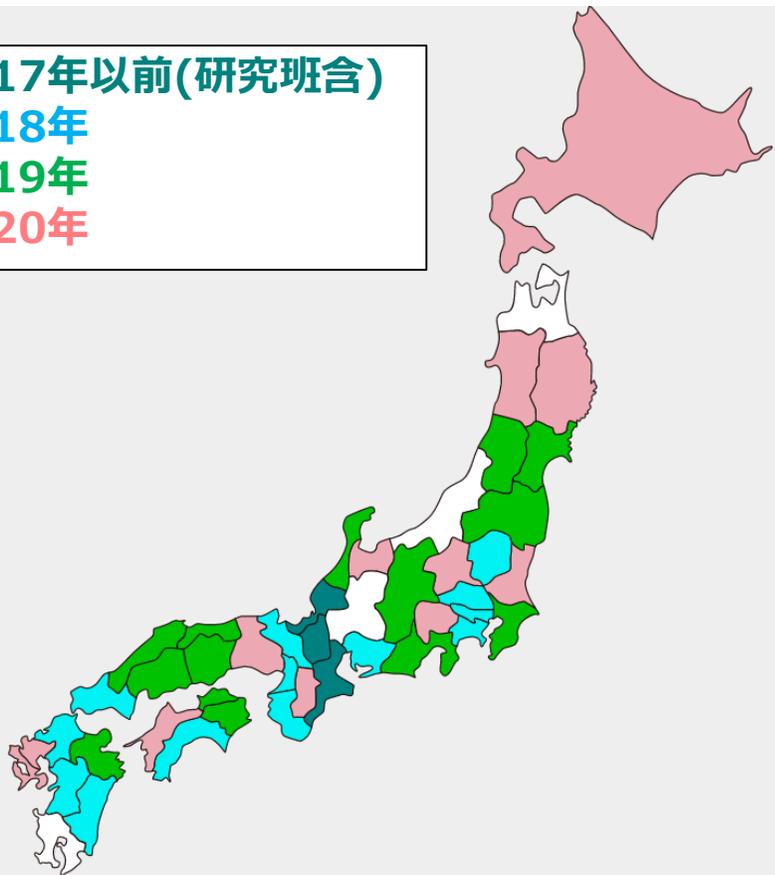
# 2022年度「相談対応の質保証を学ぶ」研修 講師派遣開催予定

コロナウィルス等の影響により、2018～2020年に「相談対応の質保証を学ぶ」研修の講師派遣事業を実施できていなかった4県に対して、実施いたします。

研修日時	都道府県	担当施設	研修予定会場
10/15	鹿児島県	鹿児島大学病院	オンライン
未定	岐阜県	岐阜大学医学部附属病院	オンライン
未定	青森県	青森県立中央病院	オンライン
未定	新潟県	新潟県立がんセンター新 潟病院	オンライン

# 2018～2020年度 「相談対応の質保証を学ぶ」研修 講師派遣事業 実施状況

2017年以前(研究班含)  
2018年  
2019年  
2020年



2018年度	14都道府県	およそ361名
2019年度	14都道府県	およそ371名
2020年度	11都道府県	およそ258名

\* 受講生：Ⅲ群報告より集計（報告未実施の都道府県除く）

## 2回目以降自主開催実施県

栃木県、福井県、滋賀県、福岡県

\* Ⅲ群申請より集計

**2回目以降の自主開催を、  
是非ご検討ください**

# 2回目以降の 「相談対応の質保証を学ぶ」研修 自主開催について

各都道府県での2回目以降の自主開催を、大歓迎します！

- 研修素材の貸し出しを行います
- 必要な場合、講師派遣（講師紹介）をおこないます（有償）

詳細はこちら（ログインIDとPWは別途連絡済）

[https://ganjoho.jp/med\\_pro/consultation/lock/qakyouzai.html](https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/lock/qakyouzai.html)

※各施設で「評価表」を活用したディスカッションを希望する場合の諸連絡も、上記に含めています

# 認定事業について

国民が安心して利用できるがん相談支援センターや相談員の環境整備を目的として、以下の認定事業を実施しています。

## ■ 「認定がん専門相談員」 認定事業

整備指針に定められている相談員の研修受講要件を満たしているだけでなく、

**国際がん情報サービスグループ（ICISG）が示す“Core Values”をはじめとした基本姿勢を遵守しているか、相談対応に必要とされる知識や情報を更新するため継続的に学習し自己研鑽に励んでいるか等**について、一定基準を満たした相談員を「国立がん研究センター認定がん専門相談員」として認定します。

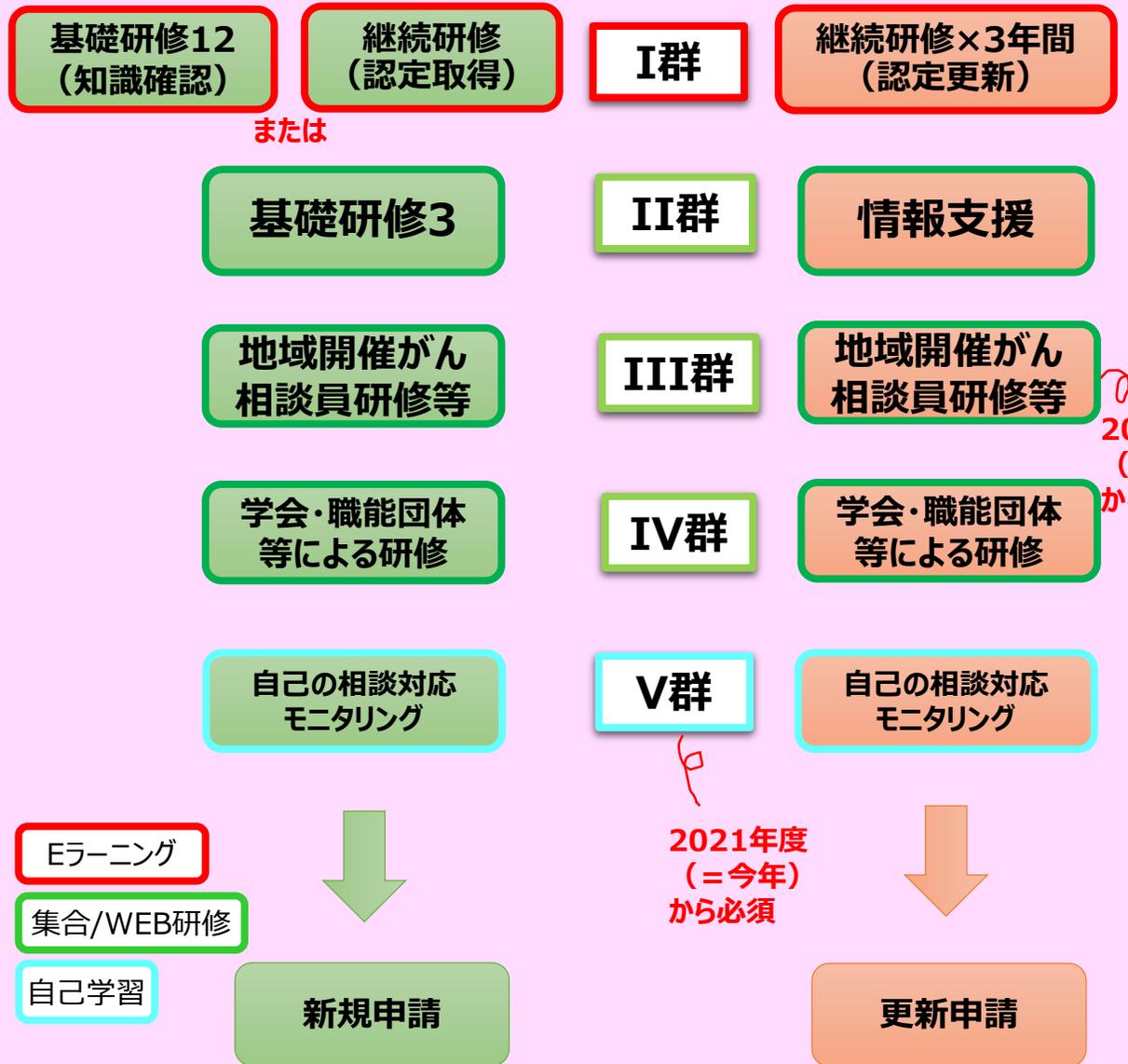
## ■ 「認定がん相談支援センター」 認定事業

整備指針に定められているがん相談支援センターの要件を満たしているだけでなく、

**提供する支援サービスの質を維持・向上させていくための体制整備に努めているか、相談対応を検証し評価・改善活動に取り組んでいるか等**について、

一定基準を満たした施設を「国立がん研究センター認定がん相談支援センター」として認定します。

# 「認定がん専門相談員」認定事業



## 【認定相談員に求められる取り組みの一例】

### ■ 知識や情報の更新

定期的なEラーニング学習（テストあり）や研修参加により、知識や情報の更新に努めること。

### ■ 自己の相談対応のモニタリング

録音した音声データを用いて、自身の相談対応の評価・改善策の検討を行うこと。評価結果を踏まえて、取り組むべき課題・目標を具体的に設定し、相談対応の改善に向けて継続的に取り組むこと。

## 【認定相談員を対象としたサポート内容の一例】

### ■ 認定バッジの交付

### ■ 継続研修の受講

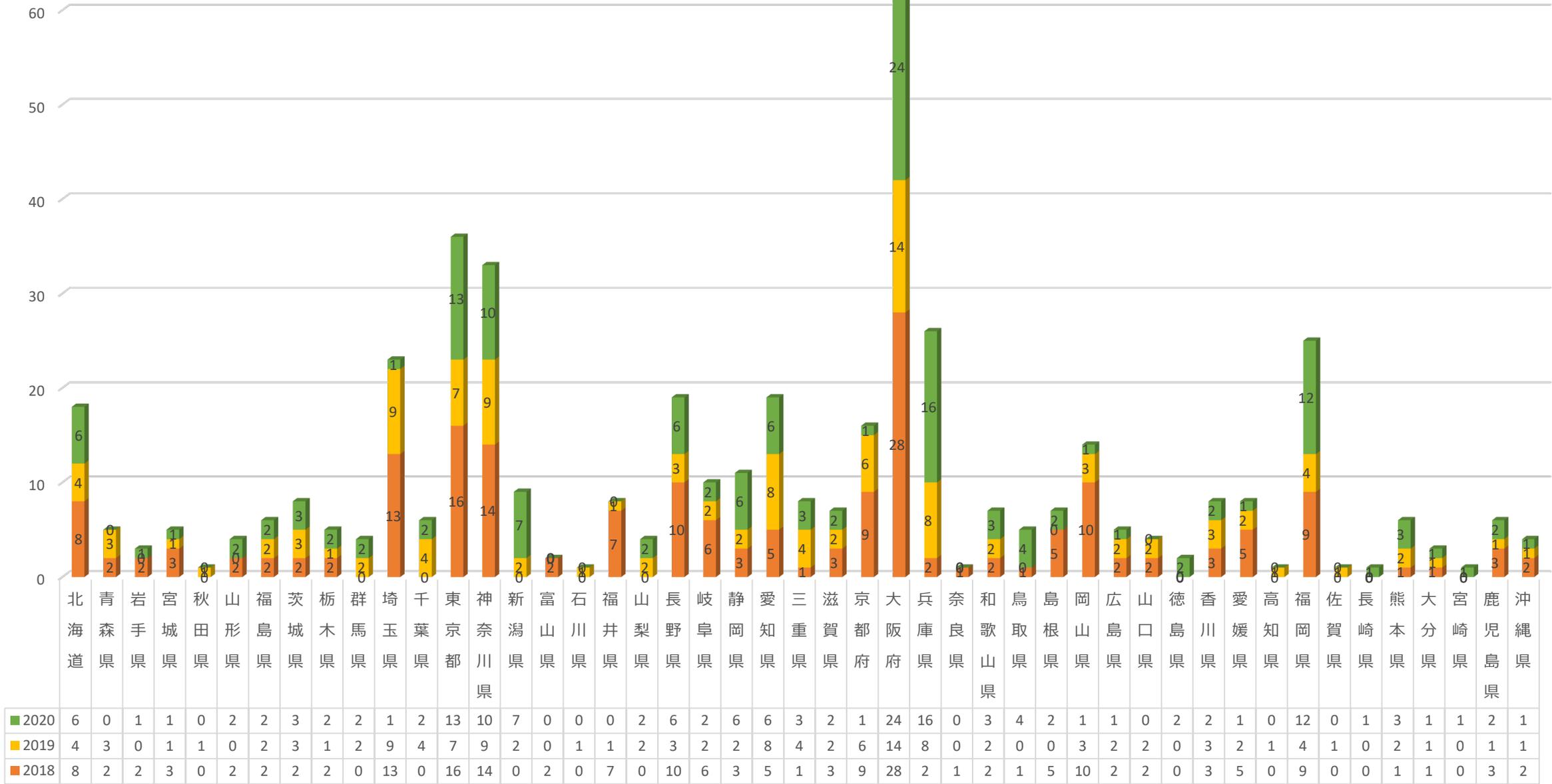
がん相談に必要な知識を継続的にアップデートできるEラーニング学習を提供します。

### ■ 研修の優先的な選考

スキルアップ研修の一部では定員を上回る応募があった場合、優先的に選考されます。

# 都道府県別「認定がん専門相談員」認定数

2021年5月20日時点



■ 2018 ■ 2019 ■ 2020

### 【認定要件（一部抜粋）】

- がん相談対応を週に20時間以上行っていること、がんの相談対応の実績が6か月以上あること
- 国立がん研究センター認定がん専門相談員を2名以上配置していること
- 「がん相談対応評価表を用いた相談対応の質評価に関する研修」を受講した相談員を原則2名以上配置していること

### 【認定施設に求められる取り組みの一例】

#### ■ 相談部門のマニュアル整備

どの相談員が対応しても一定の質の支援が提供できるようにするため、相談部門のマニュアルを整備すること。

#### ■ 部門内モニタリング

実際の相談対応を録音できる環境を整備し、音声データを用いて相談対応の評価・改善策の検討を相談部門内で定期的に行うこと。

#### ■ 相談対応に活用する情報源の評価

相談対応に活用する情報の質を担保するため、相談部門で定めた評価基準に基づいて、活用する情報源（書籍やウェブサイト）を定期的に評価、見直しすること。

### 【認定施設を対象としたサポート内容の一例】

#### ■ コールモニタリングの実施

模擬相談の際の相談対応や、模擬相談実施後に行われた部門内モニタリングでのディスカッション内容について、フィードバックを行います。

#### ■ 認定施設向け研修の実施

全国のがん相談支援センターの中でも、より一層高い水準の「情報支援」が提供できるように、がん情報サービスや診療ガイドラインの活用方法をお伝えします。

#### ■ 認定施設メーリングリストでの情報共有

国立がん研究センターで収集・整備した情報等について、認定施設のメーリングリストで共有します。

# 「認定がん相談支援センター」認定施設

2021年5月20日時点



認定がん相談支援センター

## 2020年度申請⇒認定

埼玉県立がんセンター
千葉県がんセンター
福井県済生会病院
福井赤十字病院
佐久医療センター
長野赤十字病院
愛知県がんセンター病院
大阪医療センター
西神戸医療センター
兵庫県立がんセンター
四国がんセンター
九州がんセンター
九州病院

戸畑共立病院
済生会福岡総合病院
北海道がんセンター

## 2019年度申請⇒認定

鳥取県立中央病院
----------

## 2018年度申請⇒認定

新潟県立がんセンター新潟病院
市立岸和田市民病院
神戸大学医学部附属病院

## 2017年度申請⇒認定

長野市民病院
山梨県立中央病院
大阪国際がんセンター
市立豊中病院
兵庫医科大学病院

# 申請受付期間

認定がん専門相談員



2021年11月29日（月）～12月10日（金）

認定がん相談支援センター



認定がん相談支援センター

2021年4月1日（木）～5月31日（月）

近日受付締切

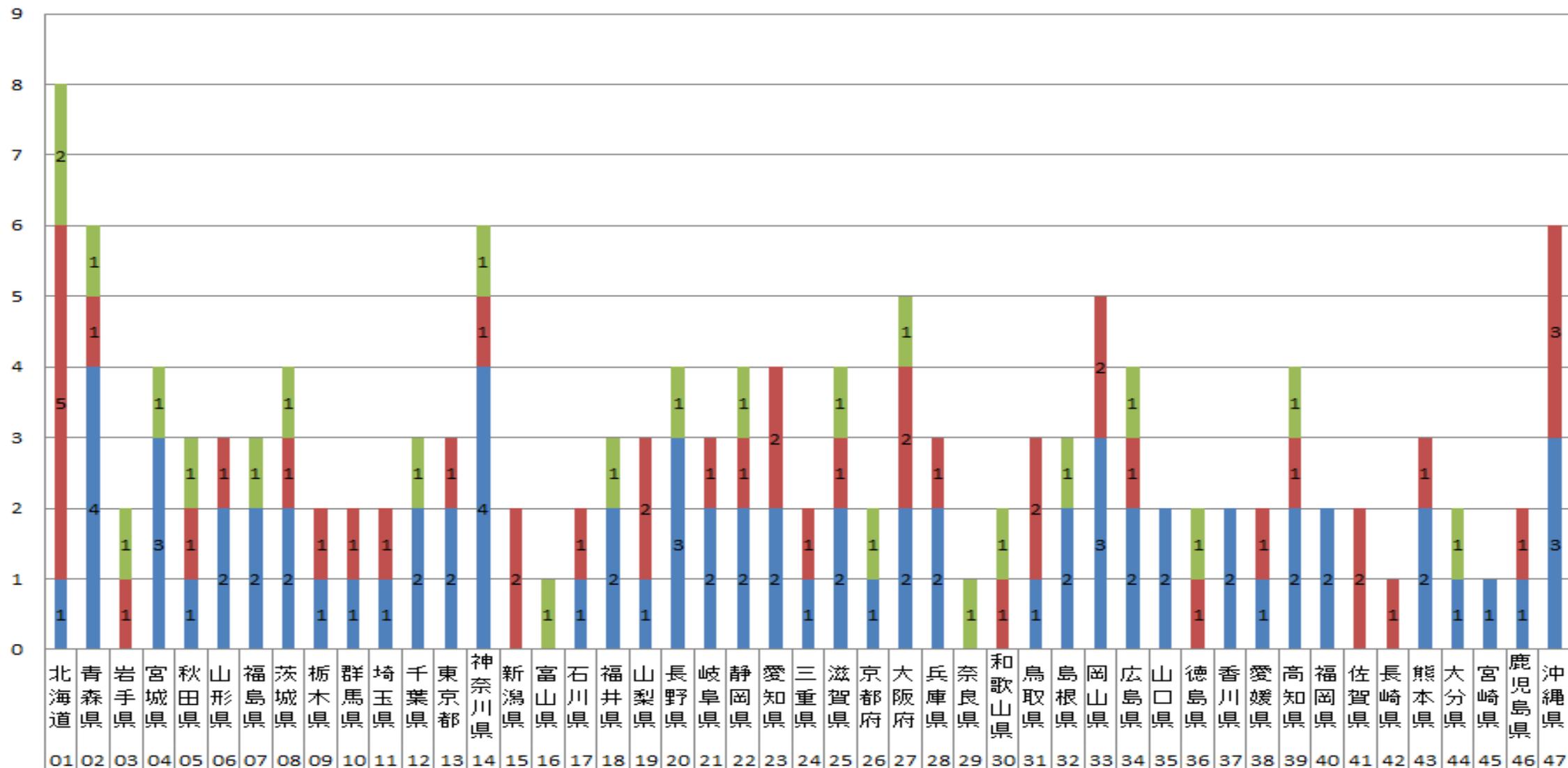
詳細は募集要項をご参照ください。

国立がん研究センター>がん対策情報センター>プロジェクト>

国立がん研究センター「認定がん専門相談員」および「認定がん相談支援センター」認定事業のご案内

<https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/info/project/certification/index.html>

# 都道府県別III群研修 開催回数



	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
2021	2	1	1	1	1		1	1				1		1		1		1		1				1	1	1		1	1		1		1		1		1					1					
2020	5	1	1		1	1		1	1	1	1		1	1	2		1		2		1	1	2	1	1		2	1		1	2		2	1		1		1	1		2	1			1	3	
2019	1	4		3	1	2	2	2	1	1	1	2	2	4			1	2	1	3	2	2	2	1	2	1	2			1	2	3	2	2		2	2			2	1	1	1	1	3		

# 都道府県主催研修（Ⅲ群研修）のオンライン開催に関する 認定がん専門相談員認定事業での 取り扱いについて

- 以下の取り扱いとします。
  - オンラインでの研修を行った場合でも、従来から定められている要件を満たすものであれば、Ⅲ群の研修として認める。
  - 但し、オンライン研修の開催にあたっては、集合研修と同様の研修の質を維持出来るように努めること。
  - また、2時間以上の連続した実施が困難で、1つの研修を2時間未満に区切って別日に開催した場合でも、内容が連続しており、1つの研修を構成するものとなっていれば1単位とみなす。但し、内容は同一のテーマとすること。
- 詳細は、以下URLよりご確認ください。

[https://ganjoho.jp/med\\_pro/consultation/lock/IIIgtrk03.pdf](https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/lock/IIIgtrk03.pdf)

# ！Ⅲ群研修の報告について！

- オンライン研修も各地で実施されるようになってまいりました
- Ⅲ群研修の報告について、今までは可能な範囲で必須としていましたが、研修の質の担保の観点から、**2020年より必須**としています
- **2021年1月以降の開催分**で、研修報告をされていない都道府県がございましたら、以下より開催報告をお願いします
- また、通常の報告期限は、研修開催日が含まれる月の翌々月の末日です



Ⅲ群報告の  
詳細はこちら

[https://ganjoho.jp/med\\_pro/consultation/lock/IIIgtrk.html](https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/lock/IIIgtrk.html)

# 都道府県主催Ⅲ群研修 事前情報収集ご協力のお願い

- 2021年度に各都道府県で実施する予定の研修について、都道府県がん相談員研修連絡担当者宛にアンケートを実施しています
- 暫定内容で大丈夫ですので、回答へのご協力お願いいたします。未定の場合は、未定とご記入ください
- 回答結果は、『2021年度相談員研修一覧(都道府県別)』として、2021年7月頃、がん情報サービス（リニューアル後）に掲載いたします

# 拠点病院がん相談支援センターメーリングリストについて

MLメンバー登録の申請方法が  
変わります。

【これまで】メールで申請



【今後】WEBサイトにて申請

がん診療連携拠点病院がん相談支援センターメーリングリスト(ML)登録シート

(新規・変更・修正用)

必要事項をご入力の上、送信ボタンを押してください。  
\*は入力必須項目です。

- 1) e-mailアドレスは5つまで登録できます。
- 2) e-mailアドレスは貴施設発番のe-mailアドレスを登録してください。
- 3) e-mailアドレスには貴施設発番のグループアドレスを登録することができます。
- 4) e-mailアドレスにフリーメールアドレスを登録することはできません。

●基本情報

都道府県 \*

施設名 \*

詳細は、以下のページをご覧ください。(ID,パスワードが必要です)  
がん情報サービス医療関係者向け > がん相談支援 > 国指定がん診療連携拠点病院等サポートページ  
> がん診療連携拠点病院がん相談支援センターメーリングリストのご案内  
[https://ganjoho.jp/med\\_pro/consultation/lock/kyotenml.html](https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/lock/kyotenml.html)

# 第8回「施設別がん登録件数検索システム」

## 説明会のお知らせ

—相談対応時のよりよい活用に向けて—

7月30日（金）オンライン開催

がん情報提供部/がん臨床情報部/がん登録センター

# 施設別がん登録件数検索システムとは

- 院内がん登録のデータを用いて、過去に登録されたがん患者の数を施設別に閲覧できる検索システム
- 院内がん登録データを患者・家族の声に役立てるため、2014年稼働開始

「地元に戻って受診したいけど病院がわからない」

「セカンドオピニオンを聞きたいが、どの病院に行けばいいのかわからない」

→特に希少がんの情報は入手困難

- 都道府県がん診療連携病院、一部の地域がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センターの特定のPCから、インターネット上でアクセスする

検索システム導入施設は、がん情報サービス「がん種別の診療数で病院を探してもらう」に掲載中

施設別がん登録件数検索システム

施設ID:

パスワード:

ログイン

Copyright © 独立行政法人国立がん研究センター

# 施設別がん登録件数検索システム画面

検索したいがんの部位や組織の他、登録病院の地域や都道府県などを指定して施設別の院内がん登録の登録患者数を検索することができる

検索条件

診断年

部位

組織系

都道府県

患者条件

診療条件  
ステージ  
手術療法  
放射線治療  
化学療法

お知ろせ

2020/

2020/

2020/

**検索条件**

結果表示方法  
● 現在のページ ○ 別ページ

検索開始 条件のクリア

検索条件を設定してください。

★ 部位・組織型

- 診断年  
2018 ~ 2018 年
- 部位  
クリックして指定して下さい
- 組織型
- 性状コード (GISTは境界悪性も悪性とまとめて分類)  
 2: 上皮内癌  3: 悪性

病院条件

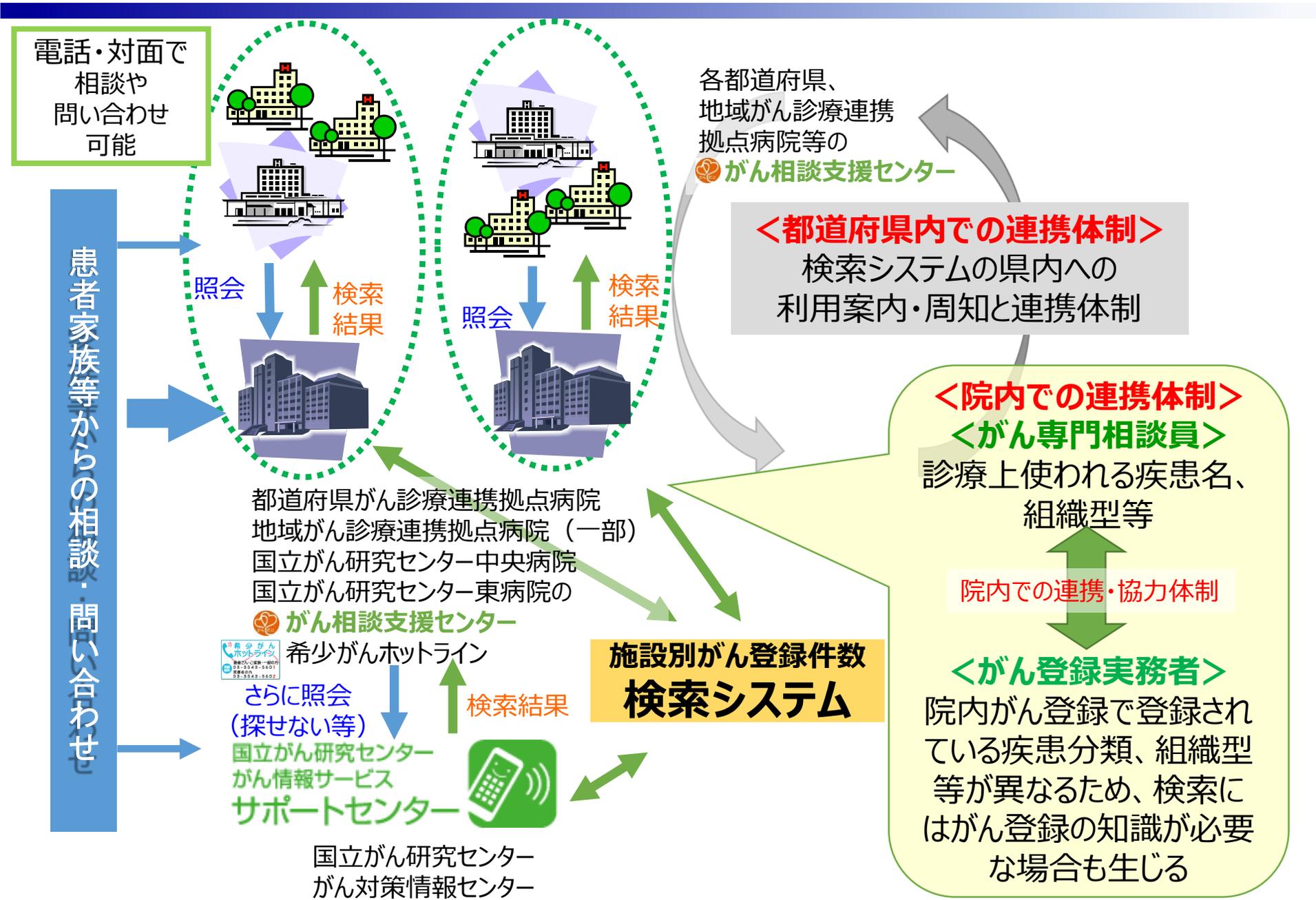
患者条件

診療条件

- 症例区分 [閉じる]  
 診断のみ症例(1)  診断・治療共に自施設(2)  
 他施設診断・自施設治療(3)  他施設治療開始後に来院(4)  
 剖検で発見(5)  その他・不明(8)
- ステージ/TNM分類 [開く]
- 手術療法/内視鏡的治療の有無 [開く]
- 放射線治療の有無 [開く]
- 化学療法/内分泌療法の有無 [開く]

結果表示方法  
● 現在のページ ○ 別ページ

# システムの運用フロー



# 「施設別がん登録件数検索システム」 説明会

## —相談対応時のよりよい活用に向けて—

- **目的** 検索システムの利用方法のアップデートする機会を提供します。また難しい疾患名に出会ったとき等の検索方法についてご紹介させていただくとともに、今後のよりよい活用方法や「検索システム」を利用した体制作りについて、みなさまとともに考えていく機会を提供します
- **対象** すでに「検索システム」を導入しているがん診療連携拠点病院等のがん専門相談員
- **概要**
  - 検索の注意と希少がんの詳細検索
  - 都道府県拠点病院における検索システムを利用した相談支援(仮)
  - 希少がんの情報提供と「がんの臨床試験を探す」の活用について
  - がん相談における臨床試験情報の調べ方・活用例
  - 検索システムの概要、院内がん登録について
  - 検索システムの活用と今後に向けた検証のお願い

# 「施設別がん登録件数検索システム」 説明会 —相談対応時のよりよい活用に向けて—

- **日時** 2021年7月30日(金) 14時00分から16時30分
- **開催方法** オンライン (Zoom)
- 都道府県拠点病院、導入している地域拠点病院はぜひご参加ください。
- 「がん相談支援」の「国指定がん診療連携拠点病院等サポートページ」のサイトからお申込み下さい

# 本日の内容

6. 地域相談支援フォーラム報告・質疑

7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

**8. その他**

1) 連絡事項

2) オブザーバーからのコメント

9. 閉会のあいさつ

# 連絡事項

## ■ 第17回情報提供・相談支援部会

日時：**2021年11月26日（金） 13:00～16:00（予定）**

オンラインで開催いたします。

※一部資料について、webでの事前公開にさせていただく可能性があります。  
ご協力のほど、お願い申し上げます。

情報提供・相談支援部会事務局

■ FAX : 03-3547-8577

■ mail: [joho\\_sodan\\_jimukyoku@ml.res.ncc.go.jp](mailto:joho_sodan_jimukyoku@ml.res.ncc.go.jp)